

ン！ひっ！

もう  
いきたくないっ！





ゆるしてえ!



もう無理さささー!



白魔術を用いた畜産で  
繁栄していた



魔法大国ドルイド王国



姫  
デアドラ姫



また姫が詩文の授業を  
さぼっていたと



宰相がおよびです



：お陰様でそれだけ怒られたんです！



宰相に怒られるのは私なんですからね

「まったく！貴様は幼少からの側近ながら姫を猿に育てるつもりかね?!」っと

あら宰相のモノマネ上手いわね



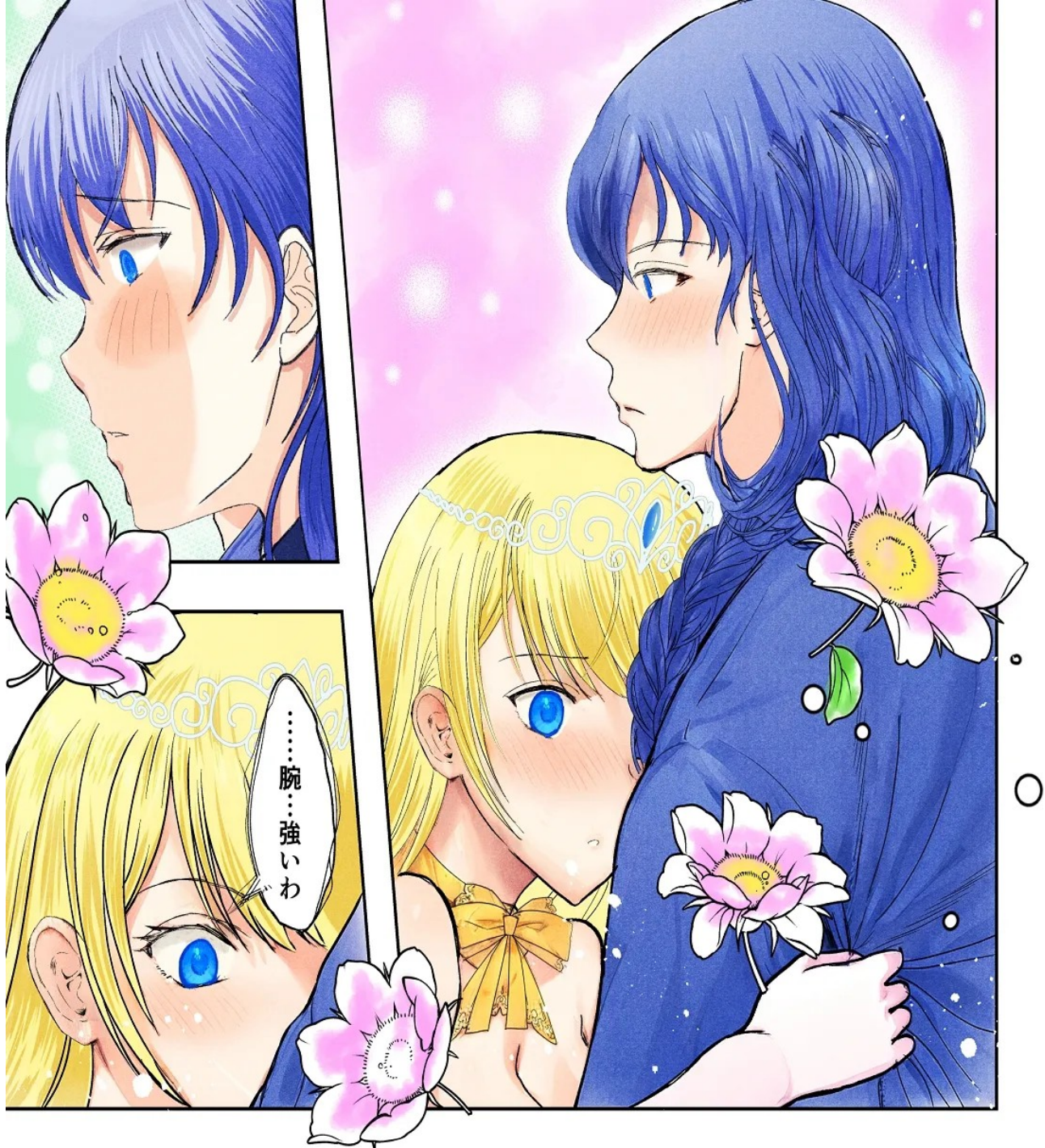
それじゃあ眉間にしわを寄せる係の顔色伺いに戻りまー



あ、姫？あぶなっ

わ?!

ガラッ



……腕…強いわ

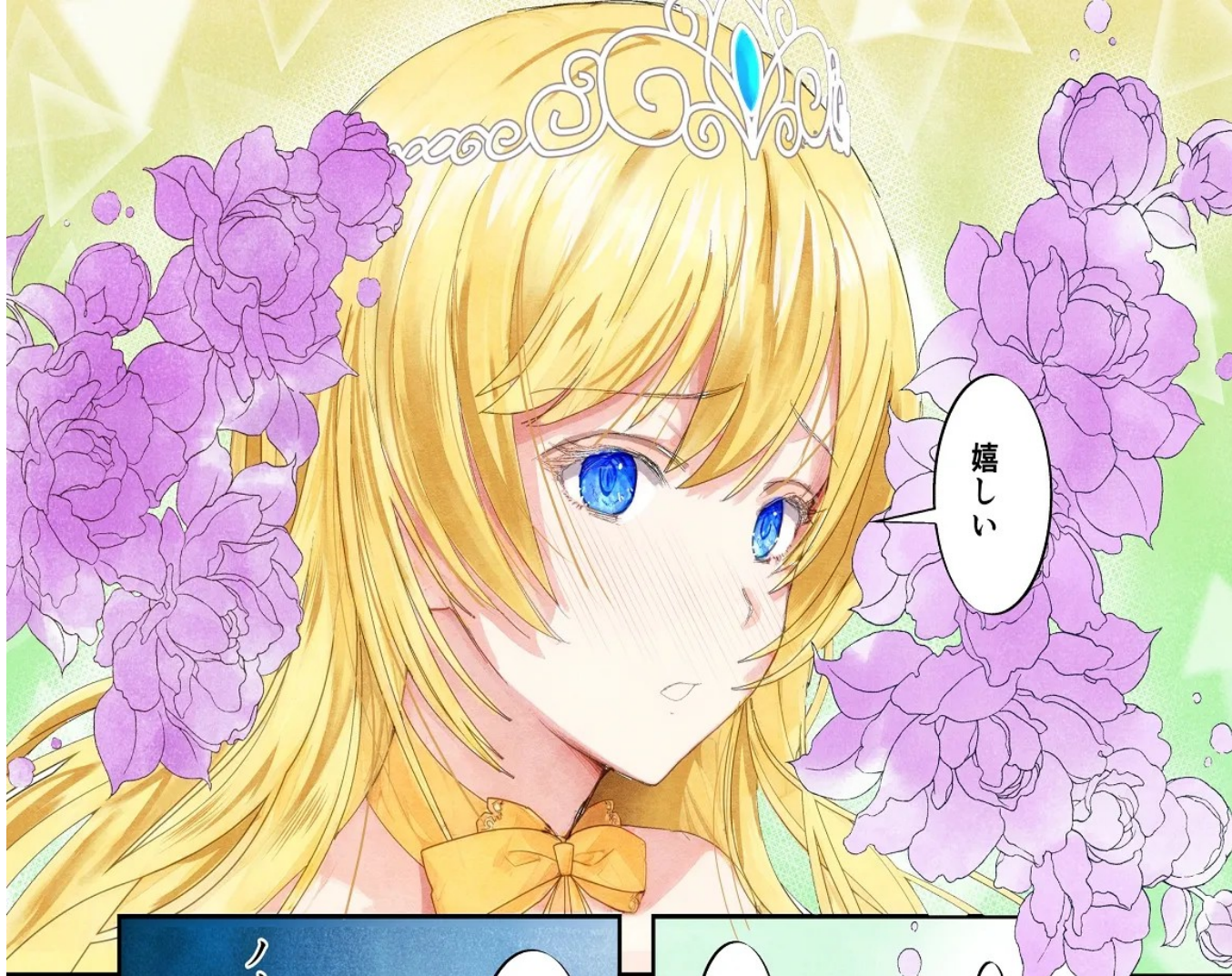


でも



びっくりしたわ

申し訳ありません  
姫!



嬉しい

ノイツシユ

私も…

姫

…



うん

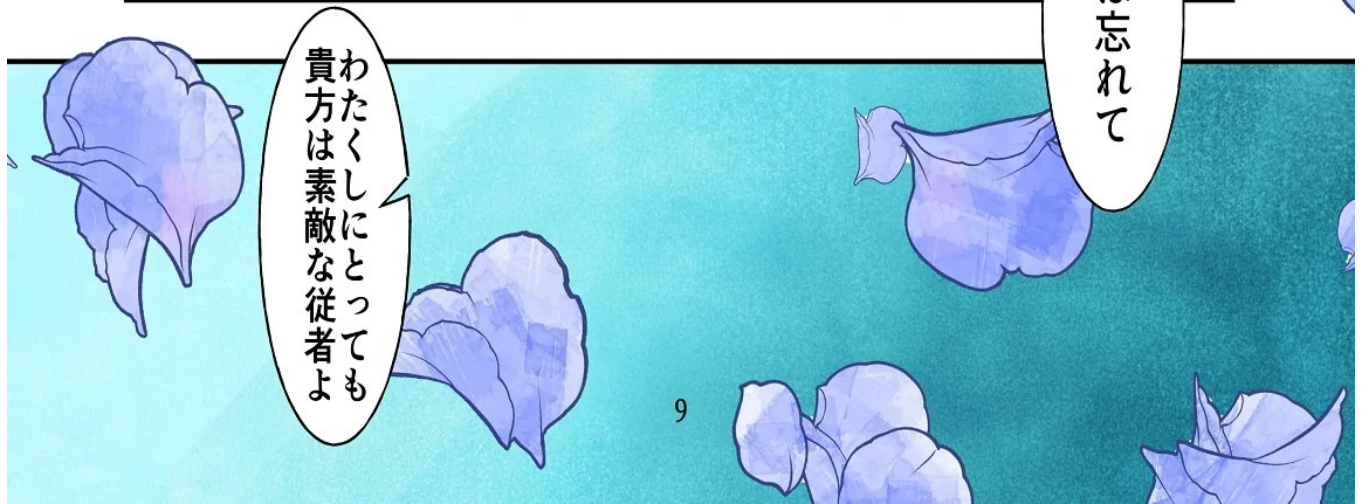
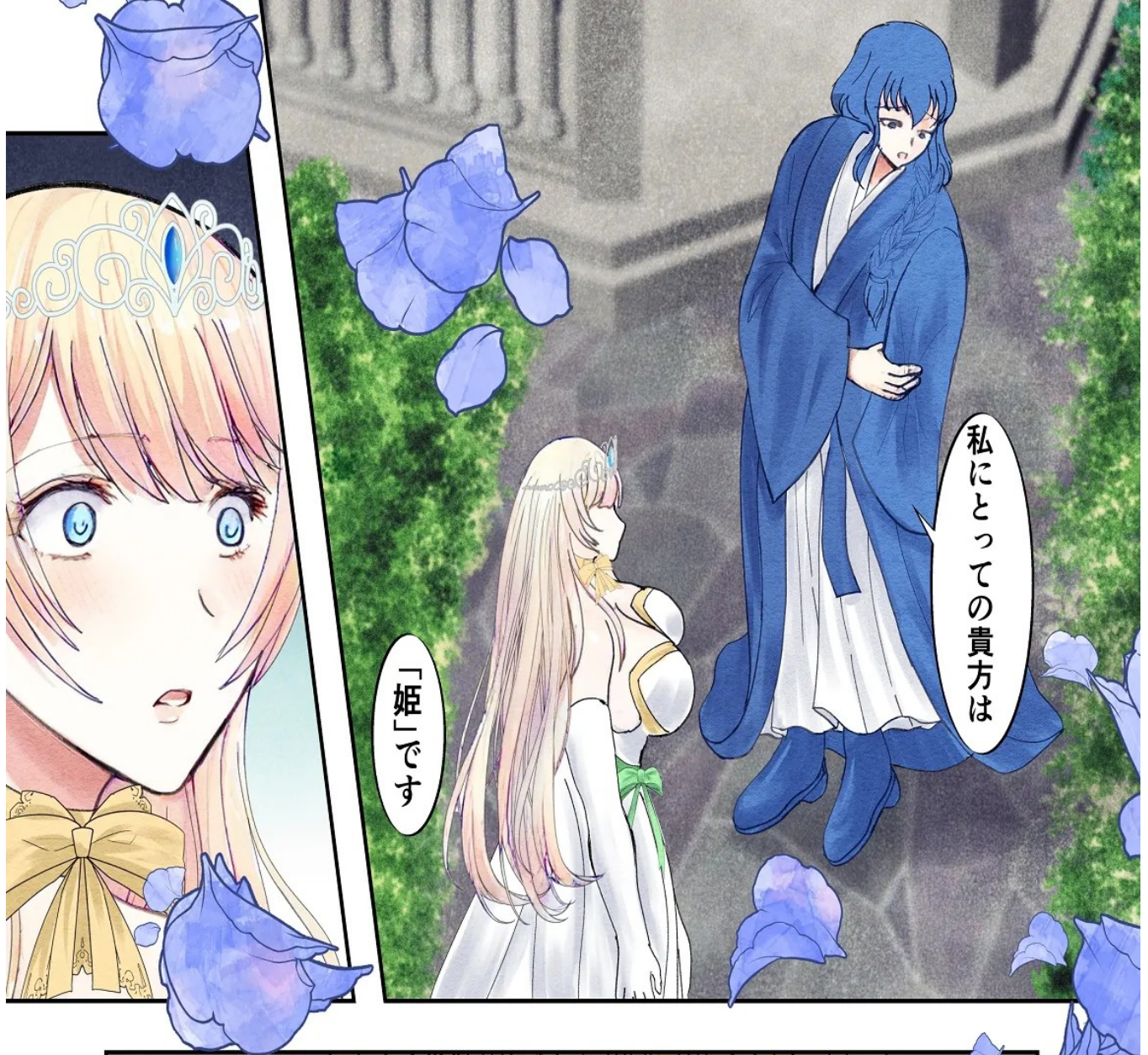
分かっちゃるよ  
ばあちゃん

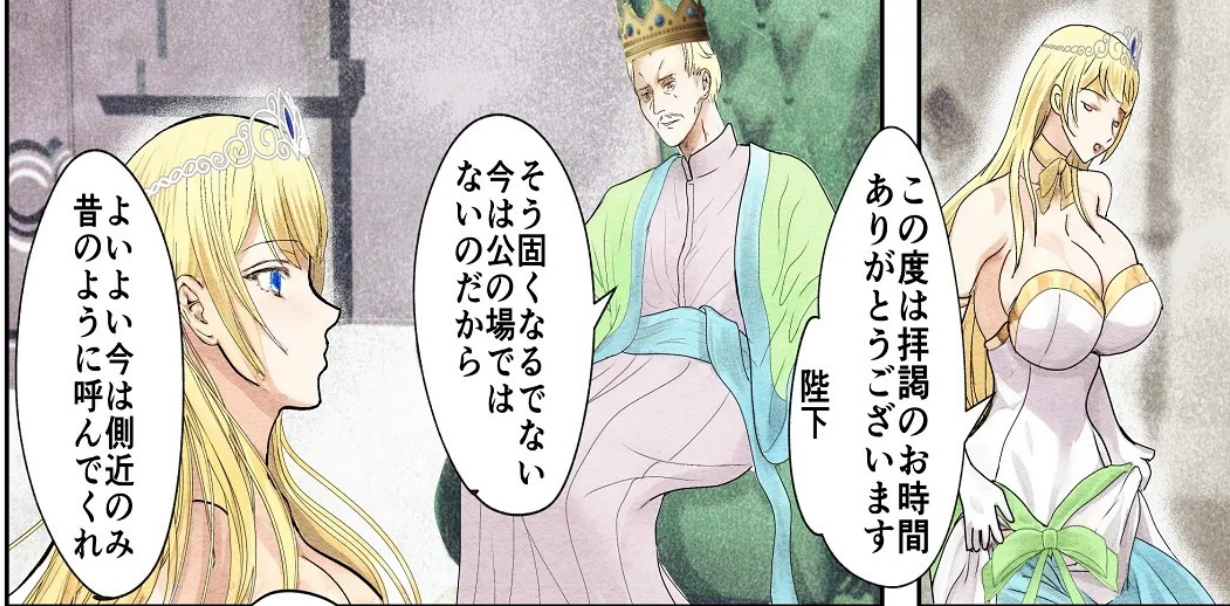


感謝はしても  
デアドラ様を  
想ってはいけないよ



元は下僕だった  
あんたの父親を  
引き立ててくれたのは  
デアドラ様のお母上だ



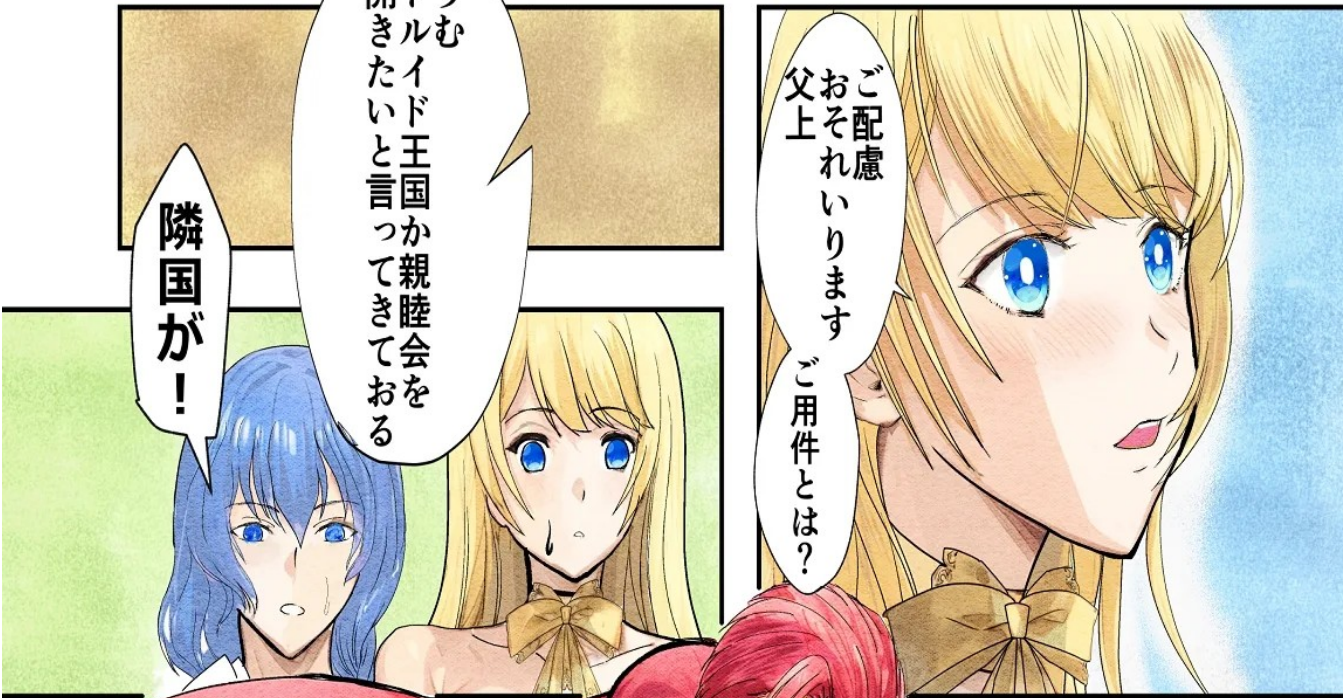


この度は拝謁のお時間  
ありがとうございます

陛下

そう固くなるでない  
今は公の場では  
ないのだから

よいよい今は側近のみ  
昔のように呼んでくれ



ご配慮  
おそれいります  
父上

ご用件とは？

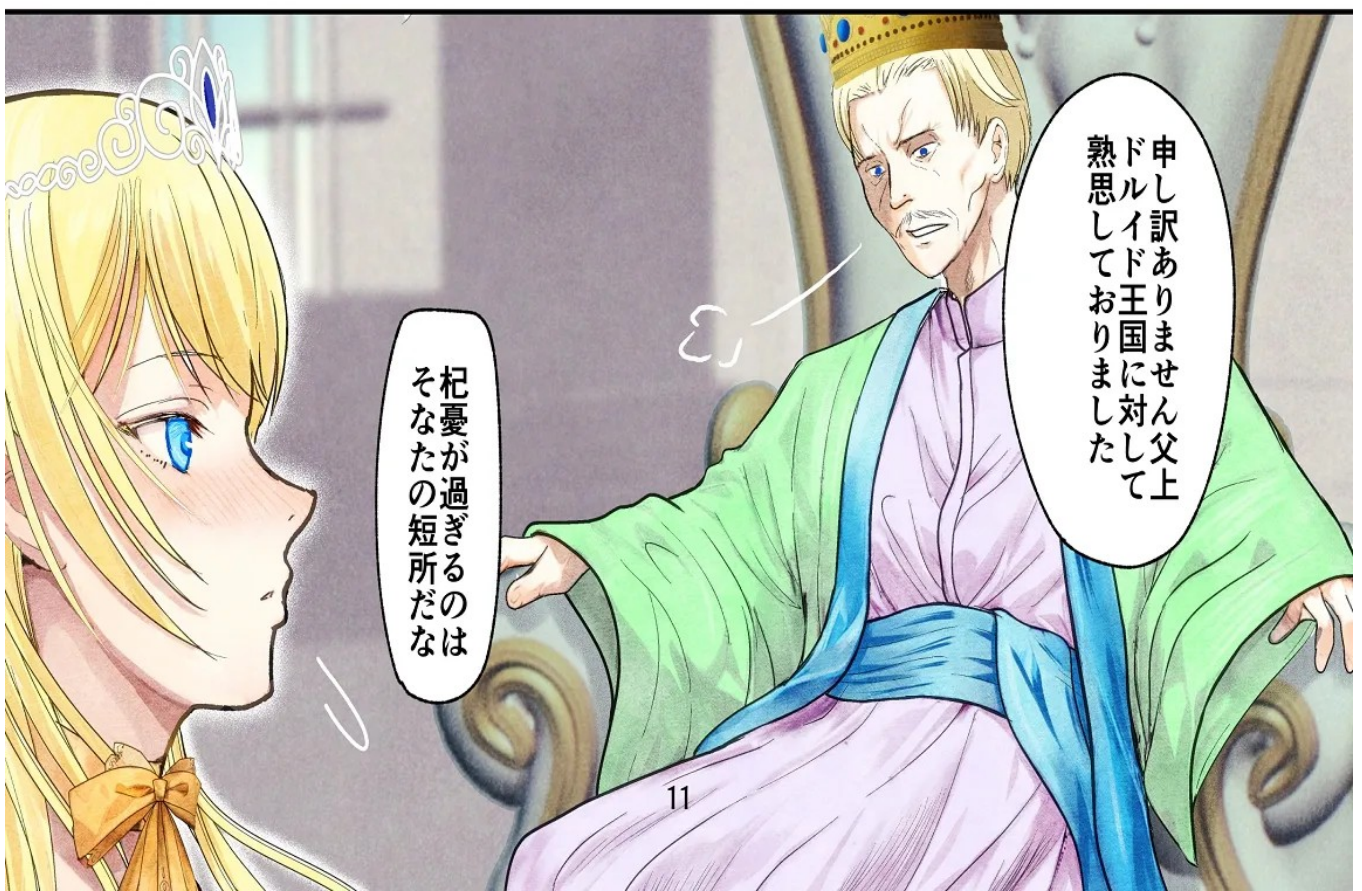
うむ  
ドルイド王国か親睦会を  
開きたいと言ってきておる

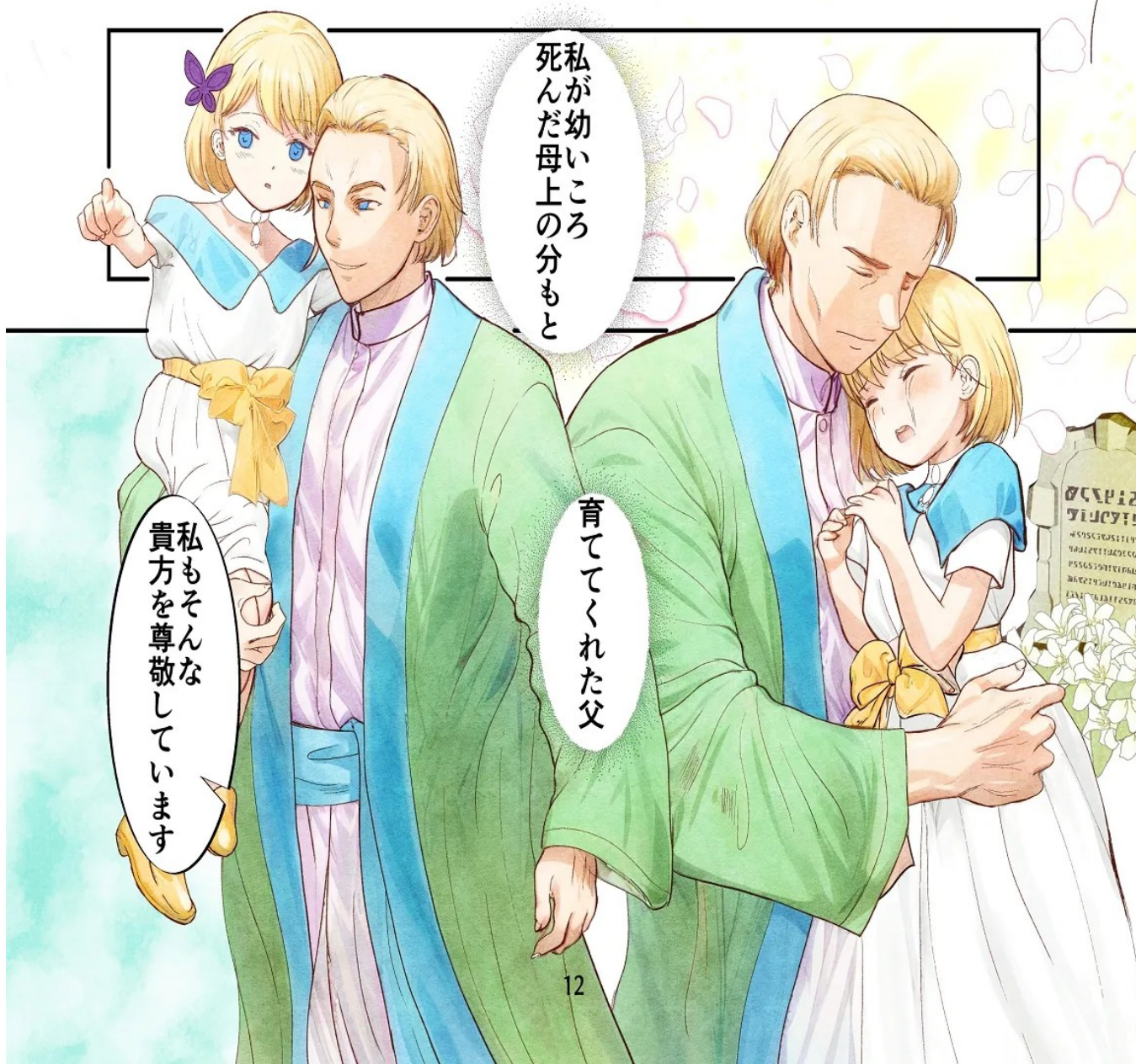
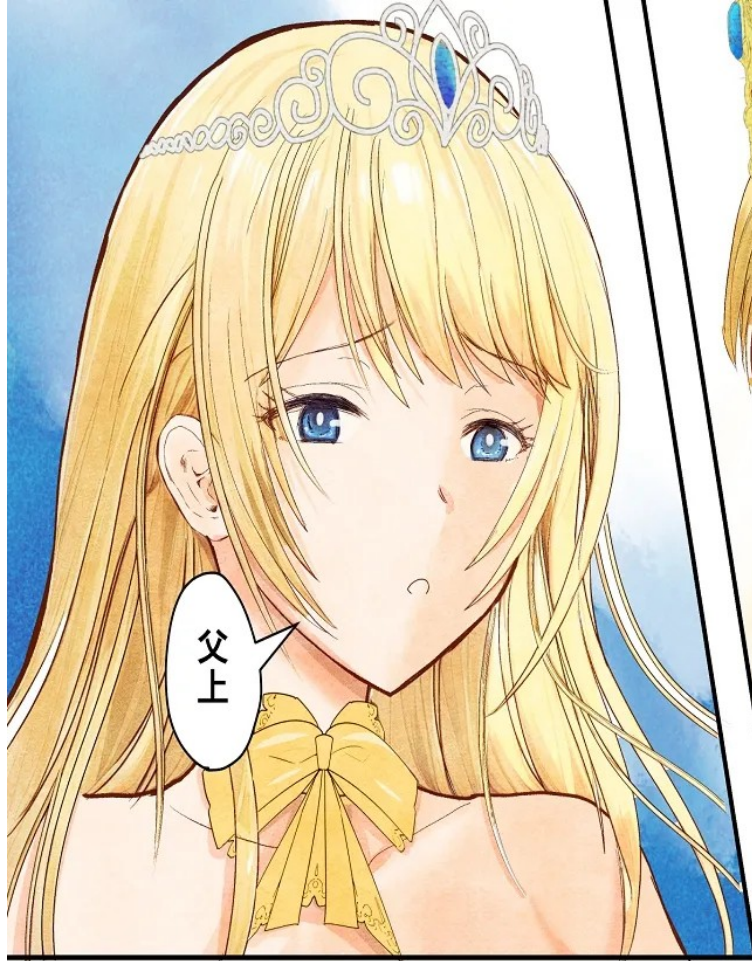
隣国が！

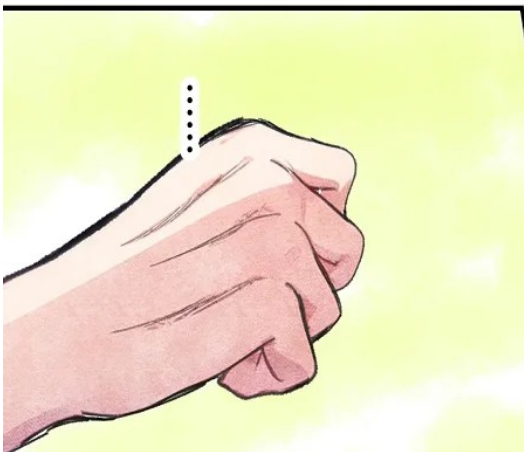
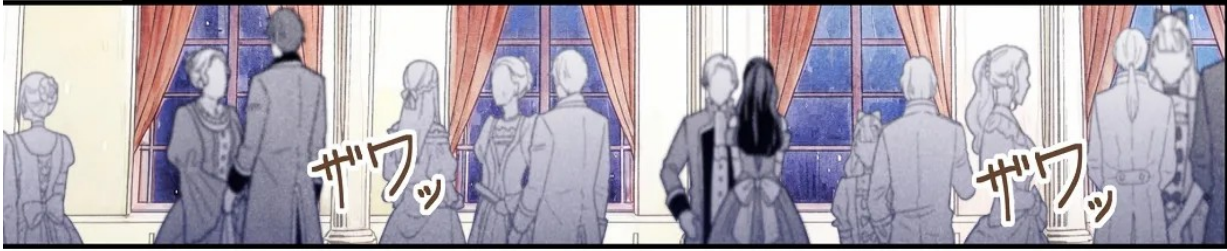


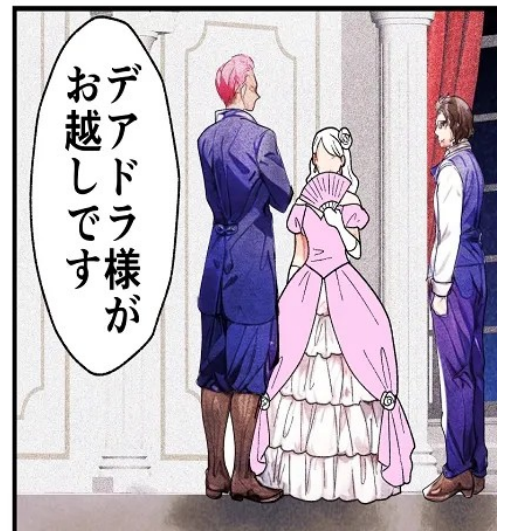
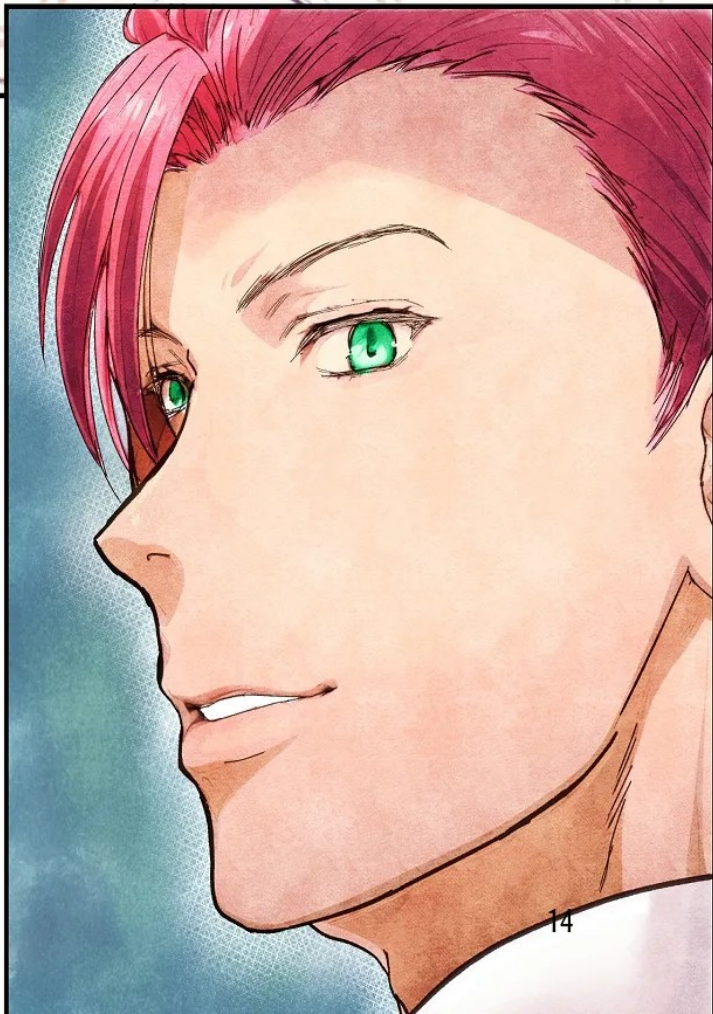
アルスターが王位継承後  
急成長を続けるやり手だが

兄と父王が全員不審死を  
遂げるなど  
黒い噂も多い









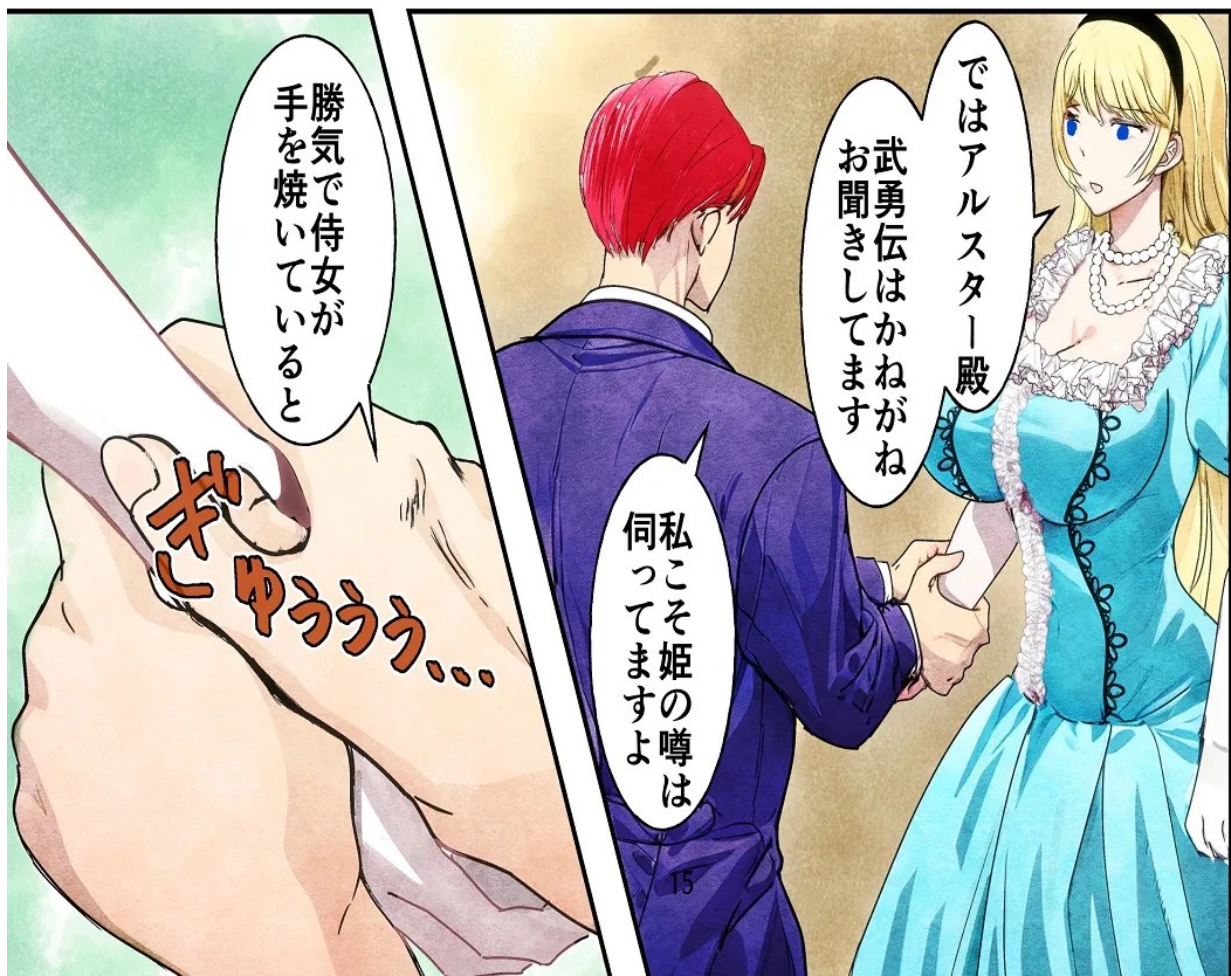


アルスターとお呼びください



これはデアドラ姫  
相変わらず見目麗しい

この度はお招き  
有難うございます王



勝気で侍女が  
手を焼いていると

武勇伝はかねがね  
お聞きしています

ではアルスター殿

私こそ姫の噂は  
伺っていますよ

ギ  
しゅうう...



私と踊って  
頂けませんか？



喜んで



失態のないようにしないと

絶対に気を置けない相手!



何を考えておいでですか?



私は目の前の  
貴方の事だけを  
見ていますわ

おっしゃる意味が...



気になりますか？

これはカスバド殿

私が言ってるのは

侍従長たるもの姫の  
身の振り方は気になるのが  
当たり前では？

ふふっ

貴方の気持ちの方ですよ



今宵の舞踏会の華は  
まさに貴女だった



姫のような方を  
この部屋に  
晒すのは惜しい  
もう少し私の隣に  
いてくれませんか？



お上手ですわね  
アルスター殿

ふふっ  
すべての視線を  
奪われるほどに



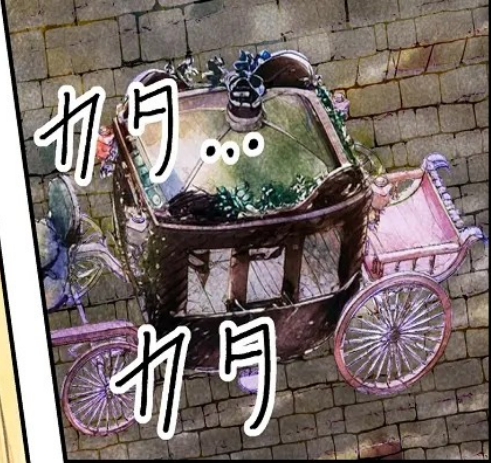
ええ素敵な夜

ありがとうございます  
ございます



では姫

名残惜しいですが  
馬車まで一緒に





お前、国境の調査に行った新入りか？

ドガッ

どうした？

きゃあああああ  
ああああああ！



ドルイド国  
神官



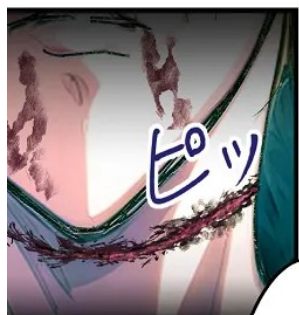
ざいっ



フロイヒ軍か！

しっかりしろ！  
敵はどんな奴だ？

館：地下があって



ピッ



違っ…隣国じゃない  
あれは…



仲間が…みんな  
闇に喰われた…



相手は小国!  
防魔法を張れば  
負けぬ!

これは騒乱の  
幕開けだ!

敗戦国ノ玉女



オオオオ

敵軍が攻めて来たぞ!

いやあ!



な...

キッ



ママあ

ママ起きてよ  
暗くて何も見え



××××年○月

圧倒的な戦力を  
誇ったドルイド軍

だが... 近衛隊長の  
裏切りが  
すべてを崩壊させ

ドルイド国は  
数日で陥落した

離して!





近衛隊長が裏切ったぞ!

裏切りだ!



きゃあ?!



誰か姫を止めて!



…父王様もノイツシュも助かりません  
我々が足止めします  
姫様だけでも!



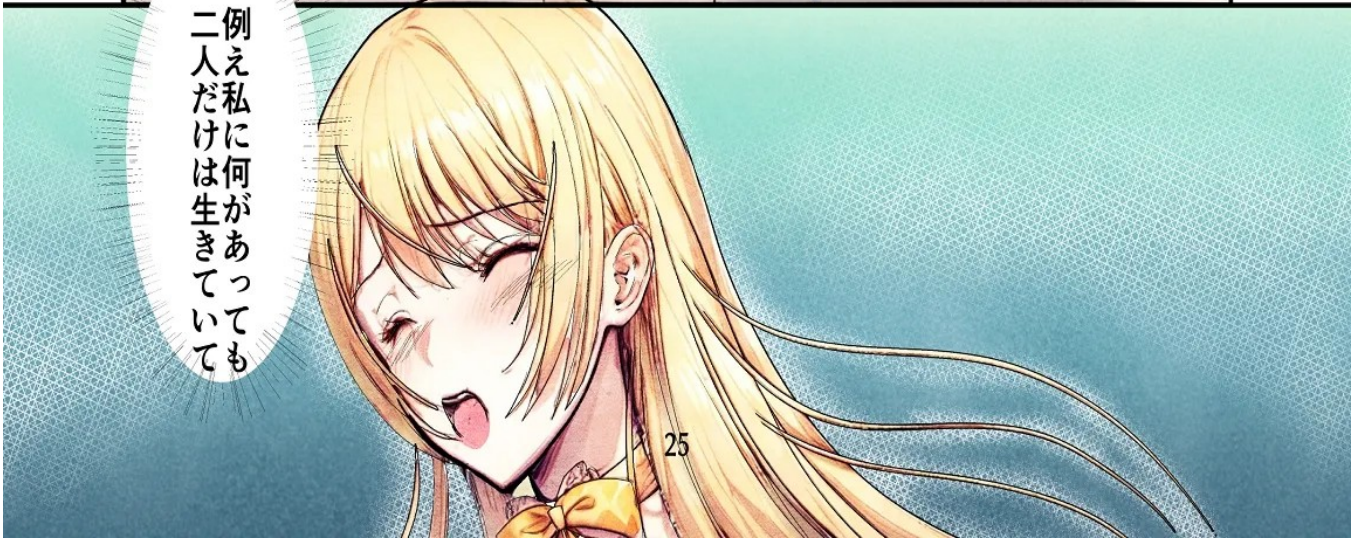
父は?

ノイツシュは  
どこのなの?!



違う

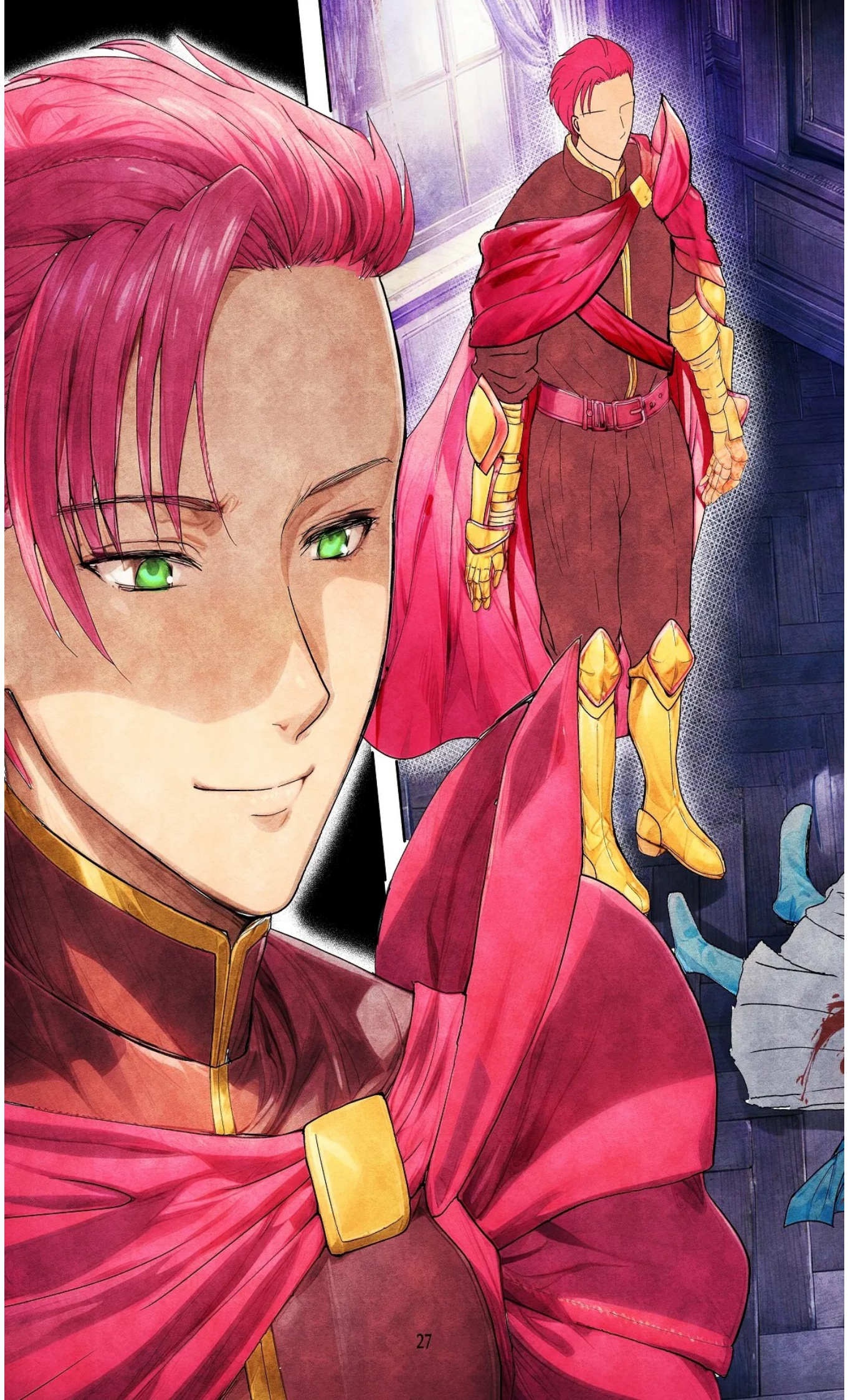
二人とも生きてるはずよ

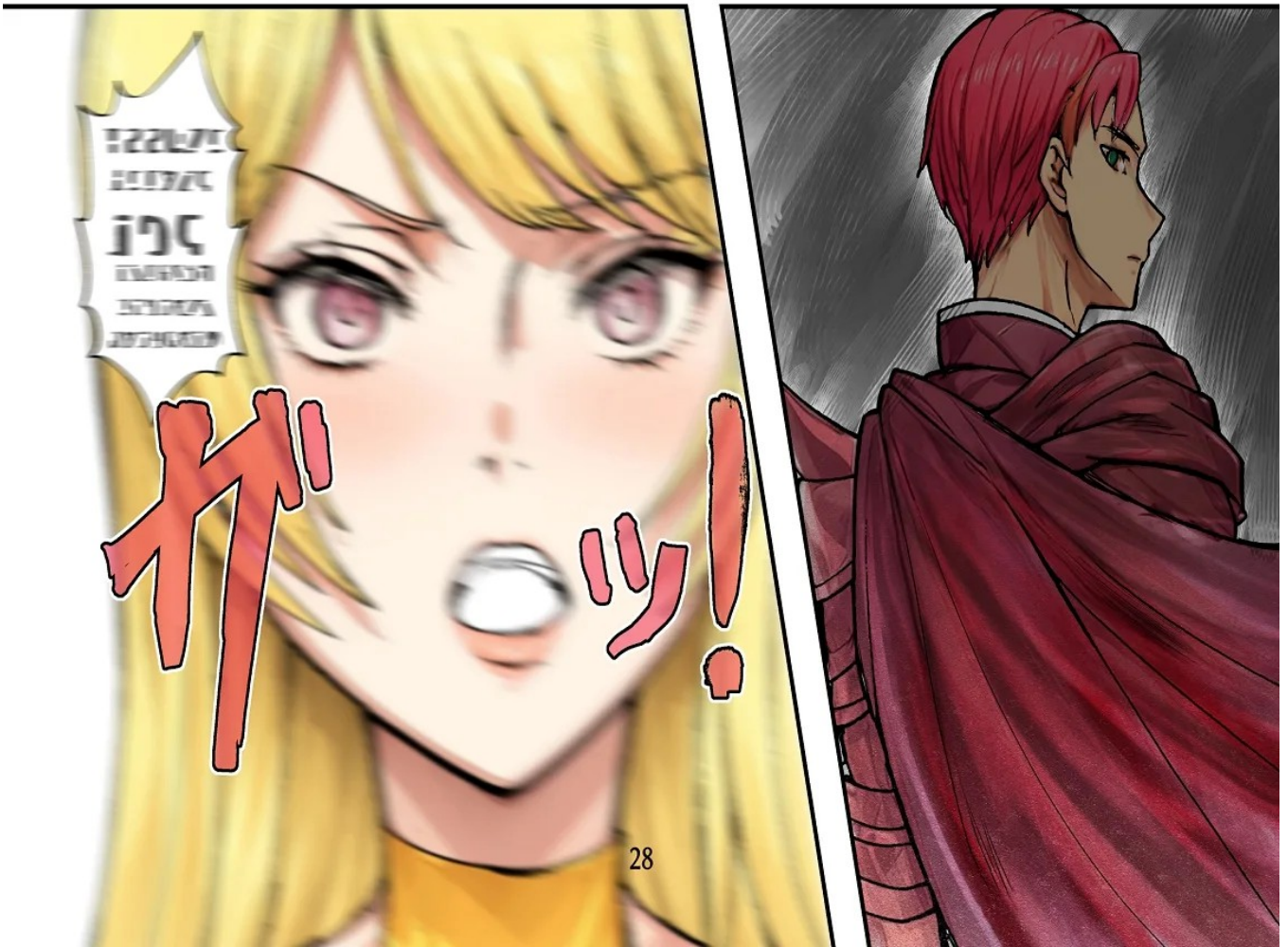
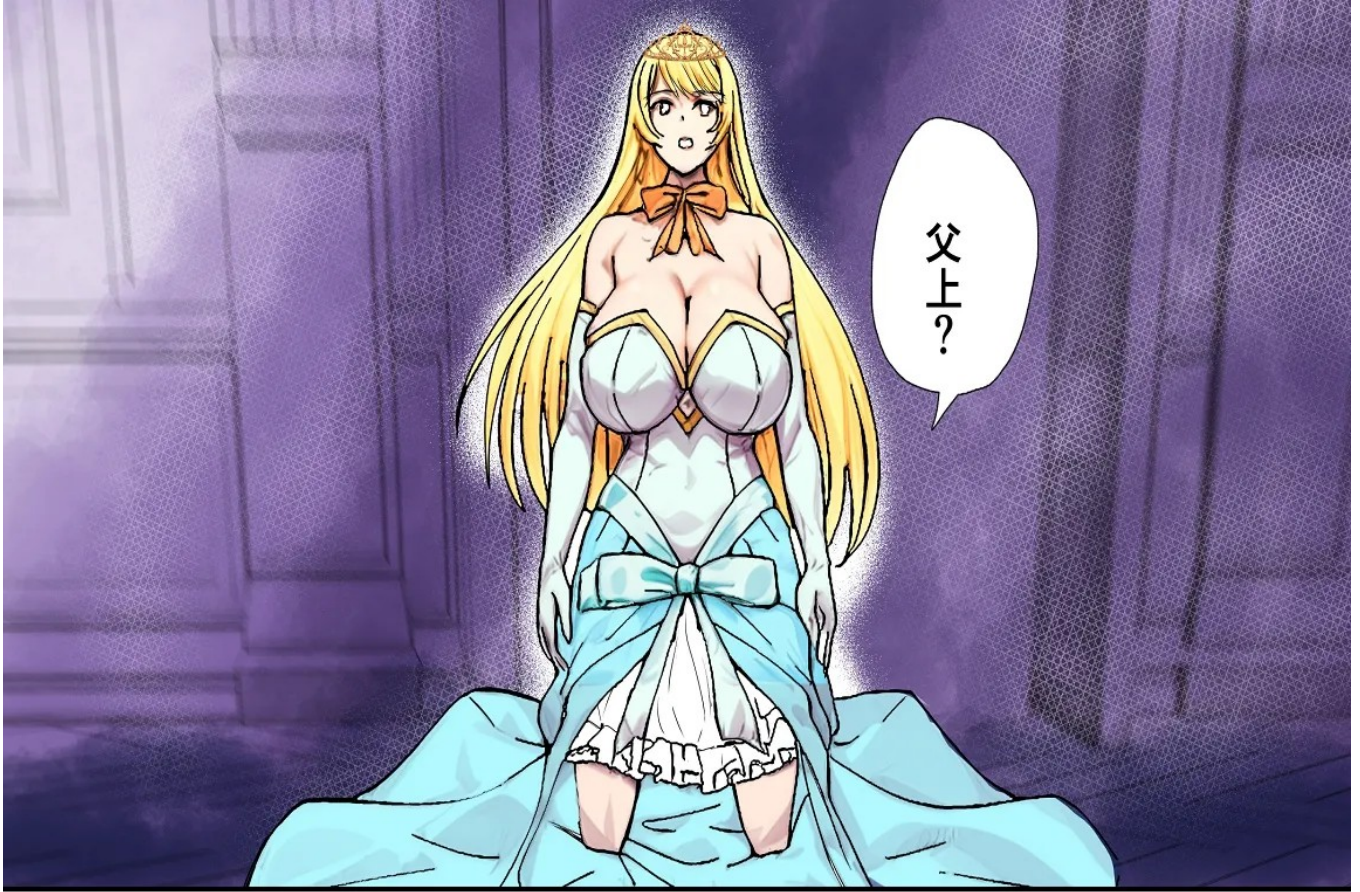


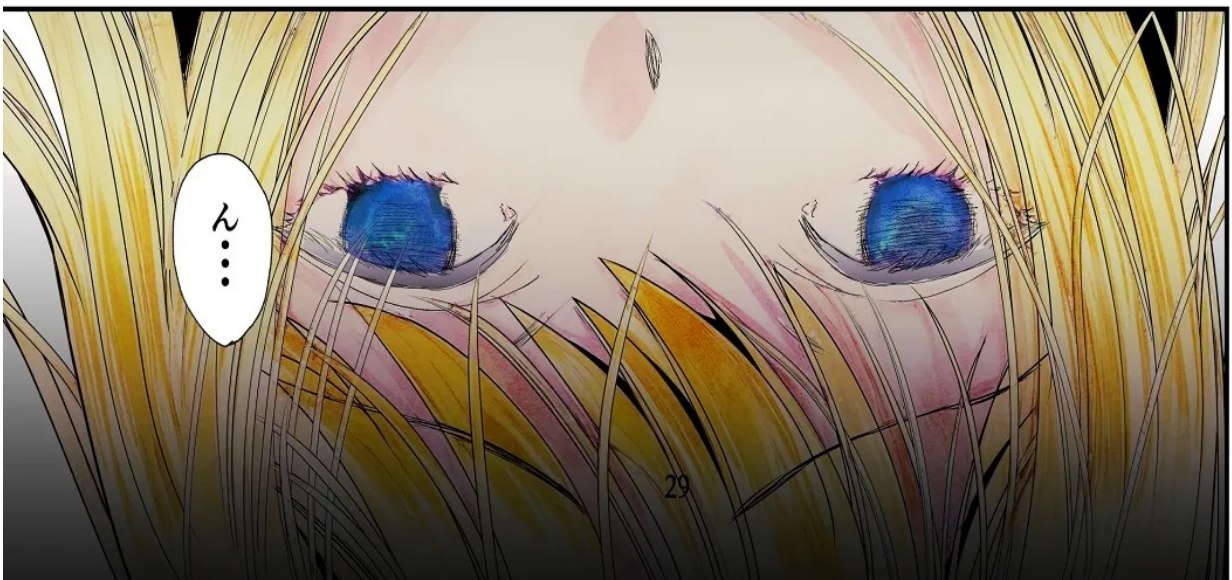
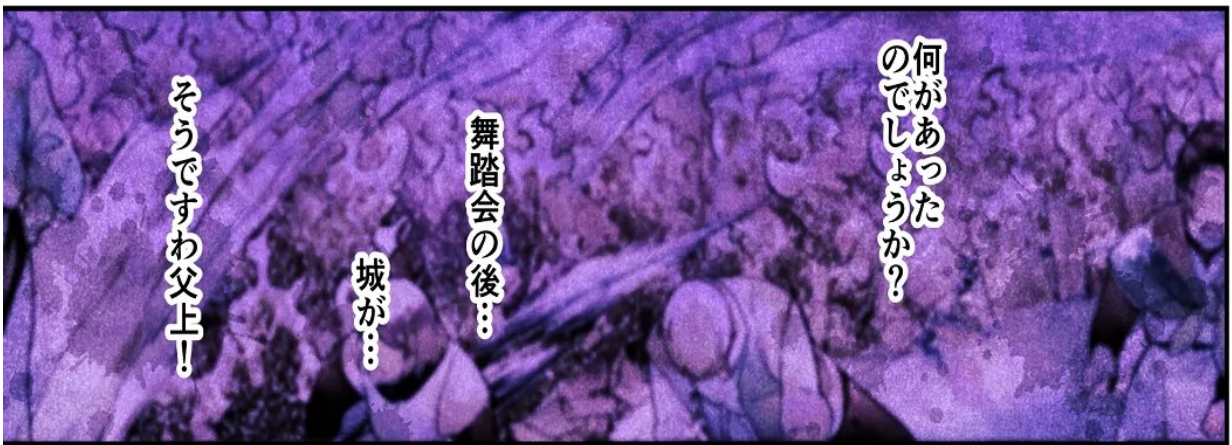
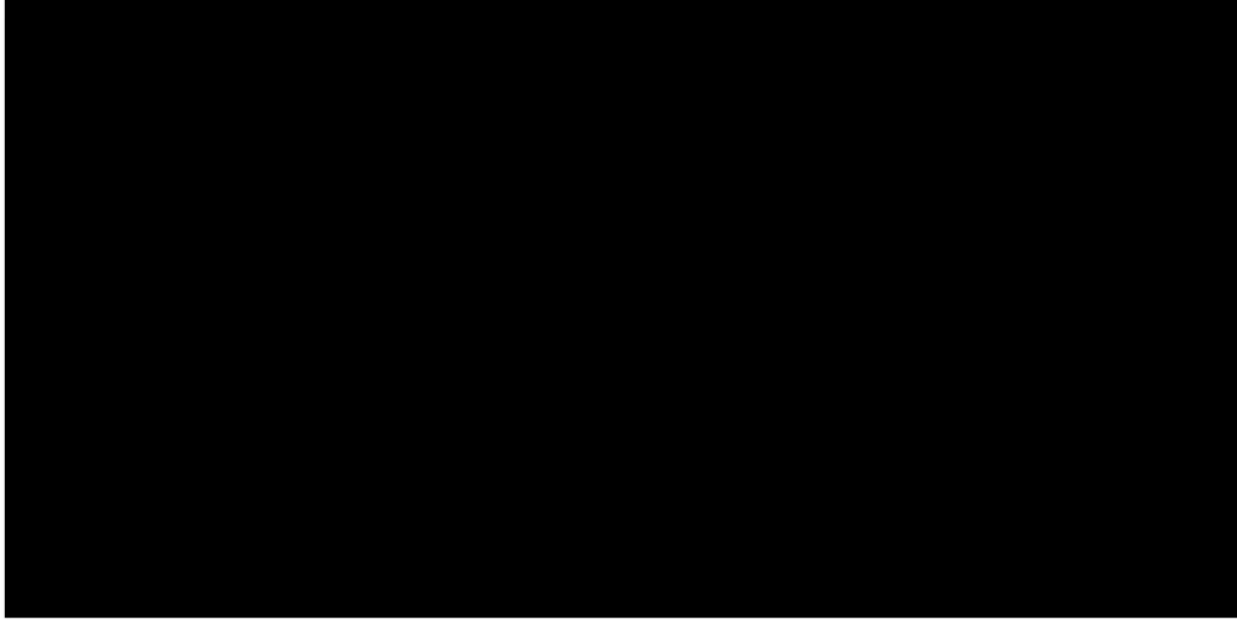
例え私に何があっても二人だけは生きていて



父上!









な!?



目が覚めたか?

アルスター王……?



じゃらっ



食ってかかられた  
のでね

少しだけ拘束させて  
貰ったよ

それに



妻にするには相応しい

!!

白魔法の血は  
魅力的だからな



誰が…

父を殺した  
貴方の妻に  
など!



ああ

とぼけないで!  
さつきー

何の事だ?

父?  
殺した?



そういう事か

ギゃああぁ!  
何を…するの…?!

ははっ

決まってるだろ?

ぶるんっ

やめっ



妃なら  
王の子を孕むのが務めだ



俺の子を産め!



乳母に教わっただろ?



セリフと反応が  
あってないぞ!

じゅるるる

言わば実戦経験だ!

ローロー

いよゝゝ

じゅるるる

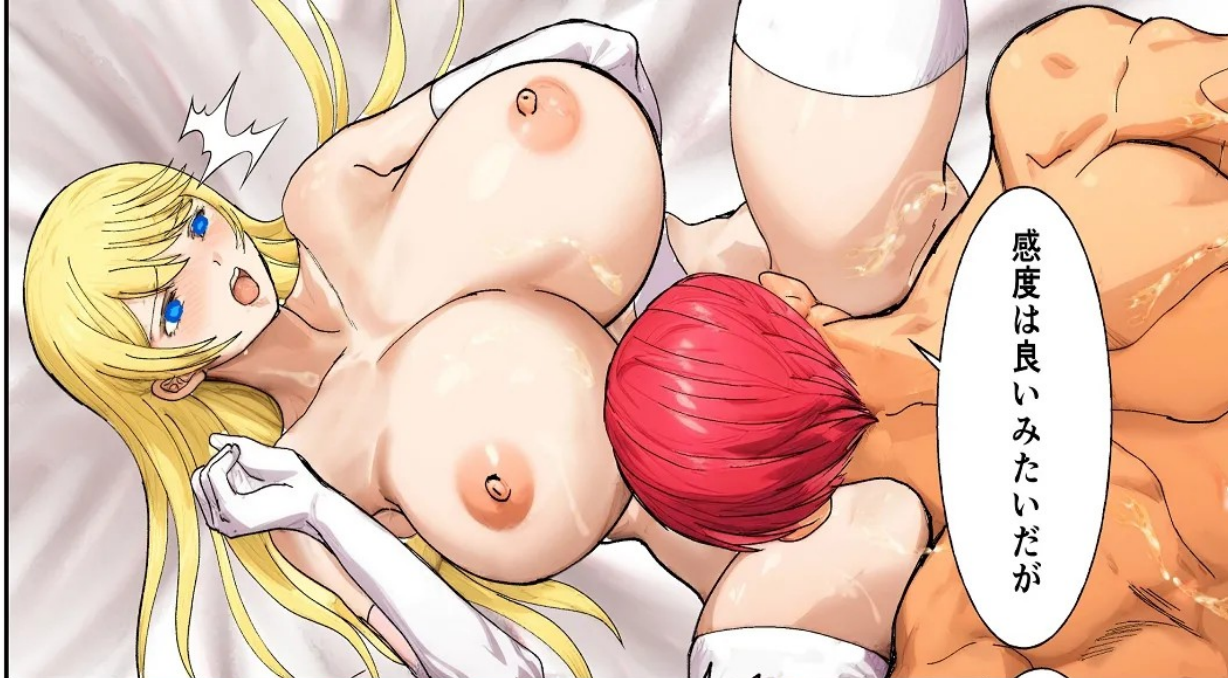
なんで? 私:敵に  
舌を這わされて  
こんな声を上げてしまっている!



あはは

あはは

ぷるるる



感度は良いみたいだが



もっと濡らさないとなっ!

そんな不浄(きたな)...

やっ...  
ああっ...



びゅんびゅん

ああっ

あん...

こ...や...

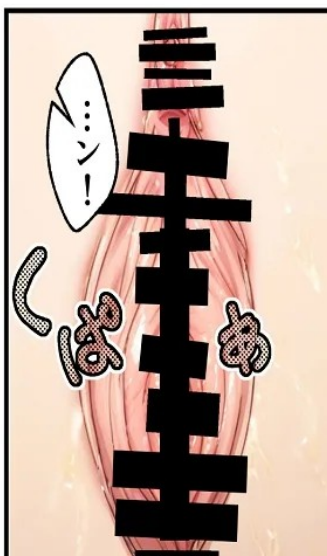
びゅんびゅん  
びゅんびゅん



敵の舌が...  
這いつてきて



女...  
私の女陰にい!



びゅん!



じゅるるるる

すぐにでも  
イキそうな位  
愛液が溢れてる  
じゃないか!

あ!

違う!?

無理やりここを  
舐められて  
感じているのか?

くちゅ

!?

きらい!  
貴方なんか大嫌い!

きらい!

きもちよく  
なんか!

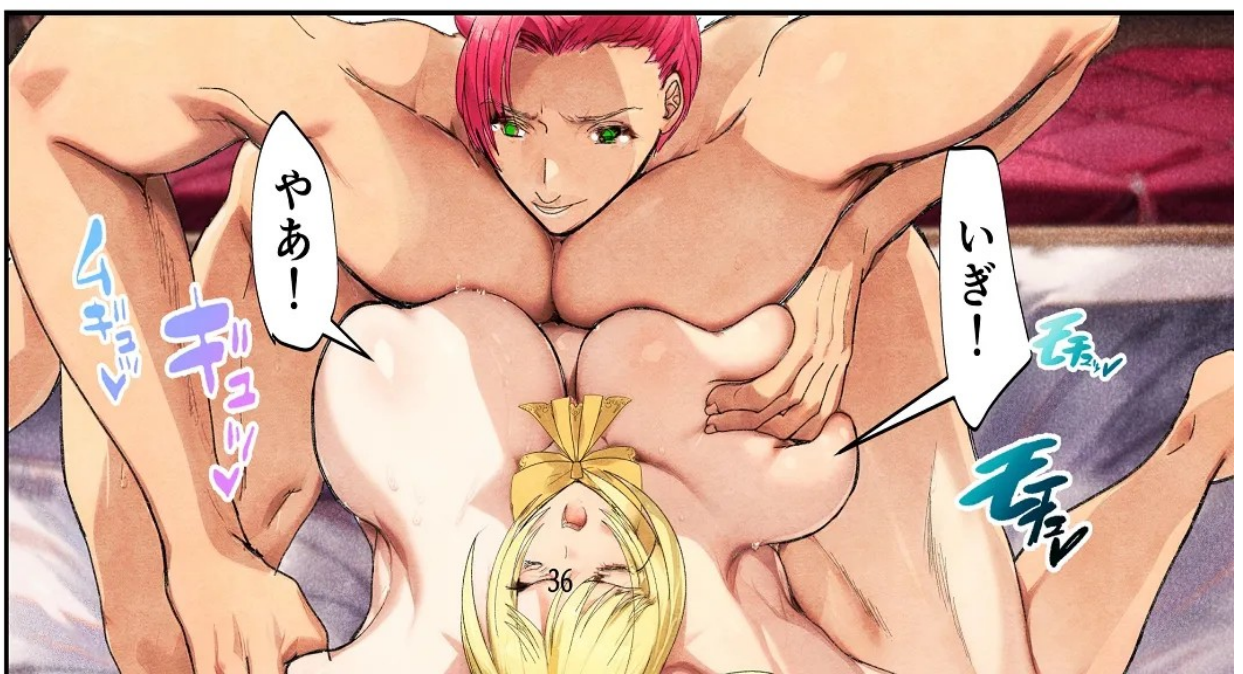


そうだ  
その眼だ！

その眼で俺を  
見続けろ！

アンタから全てを  
奪った俺を！

俺を憎め！



やあ！

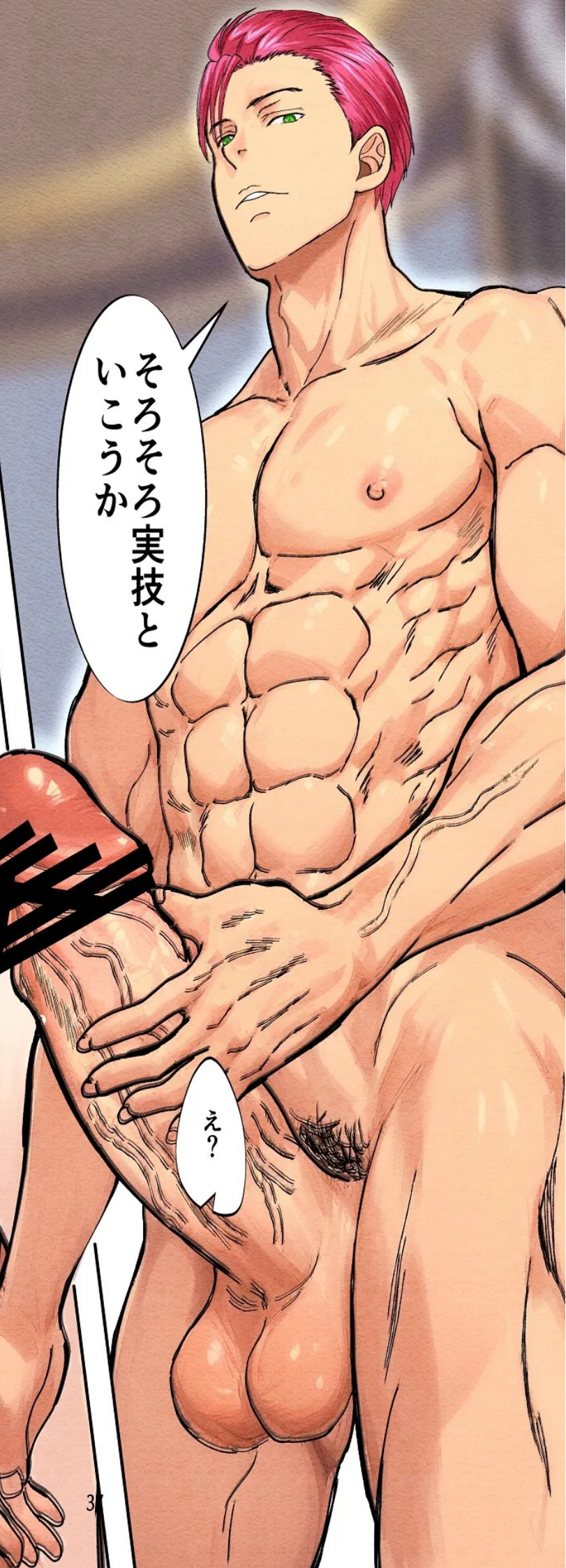
うぎー！



嫁いだ時の初夜の為と  
教えられた教本のよりも…



そろそろ実技と  
いこうか



え？



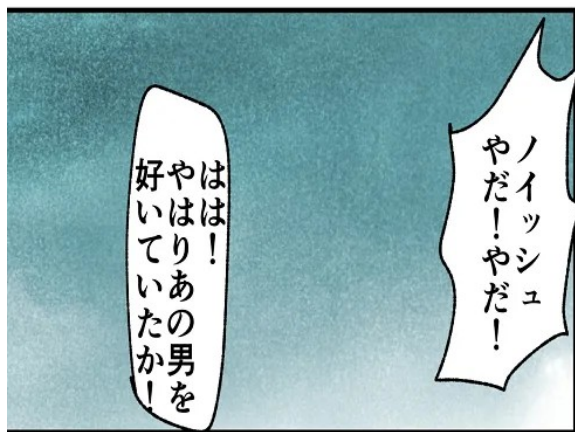




酷い言い様だな



ノイツシユ...

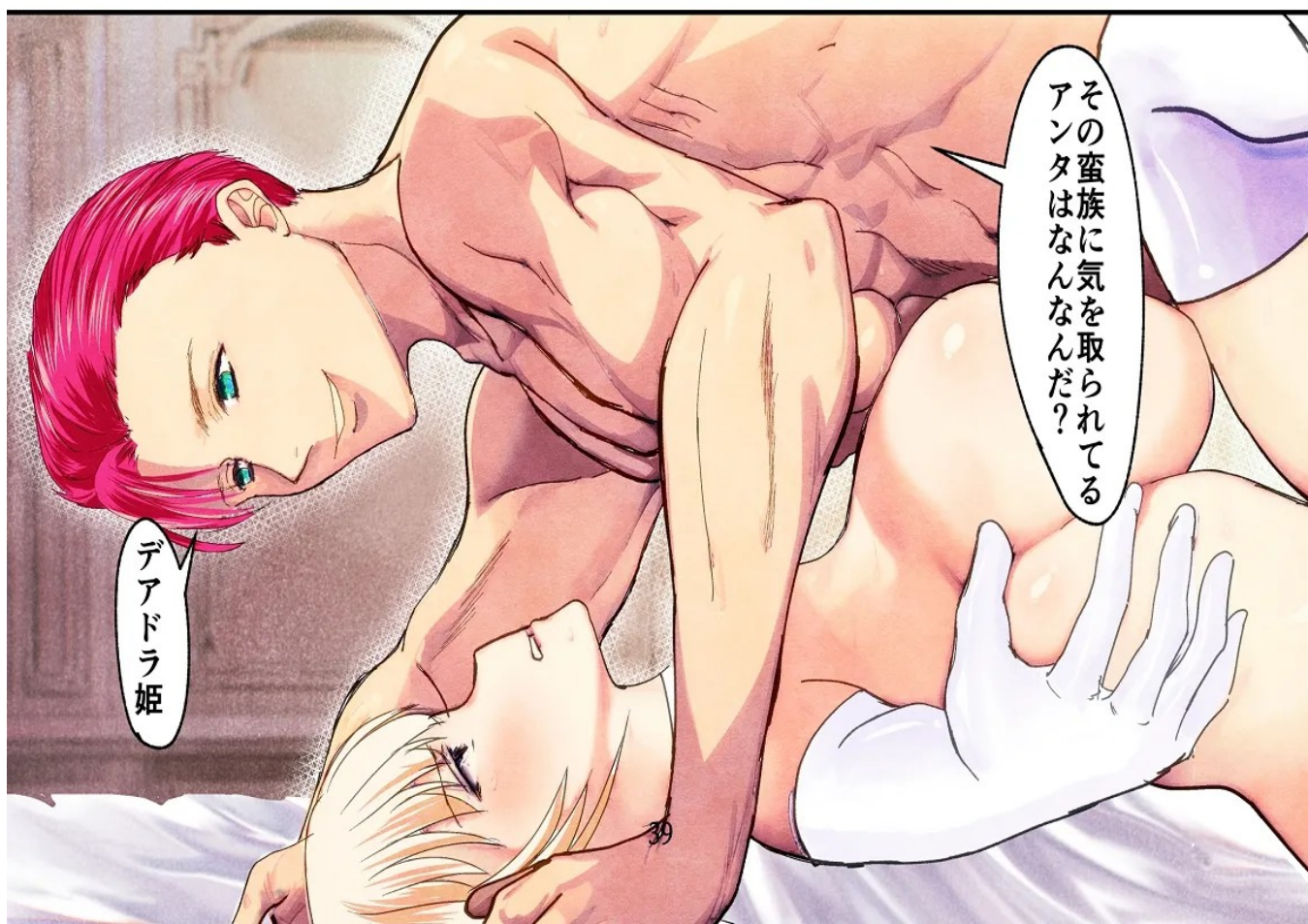


はは！  
やはりあの男を  
好いていたか！

ノイツシユ  
やだ！やだ！

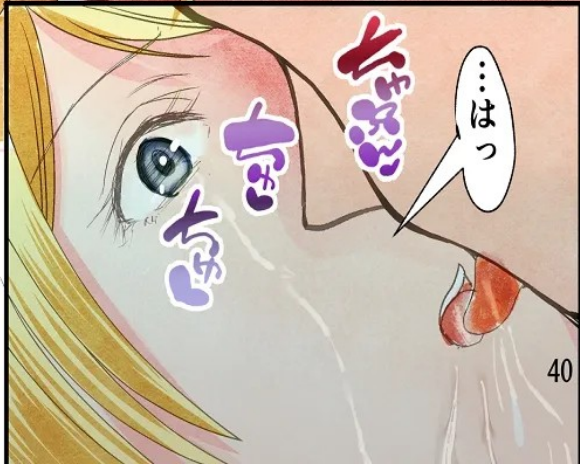
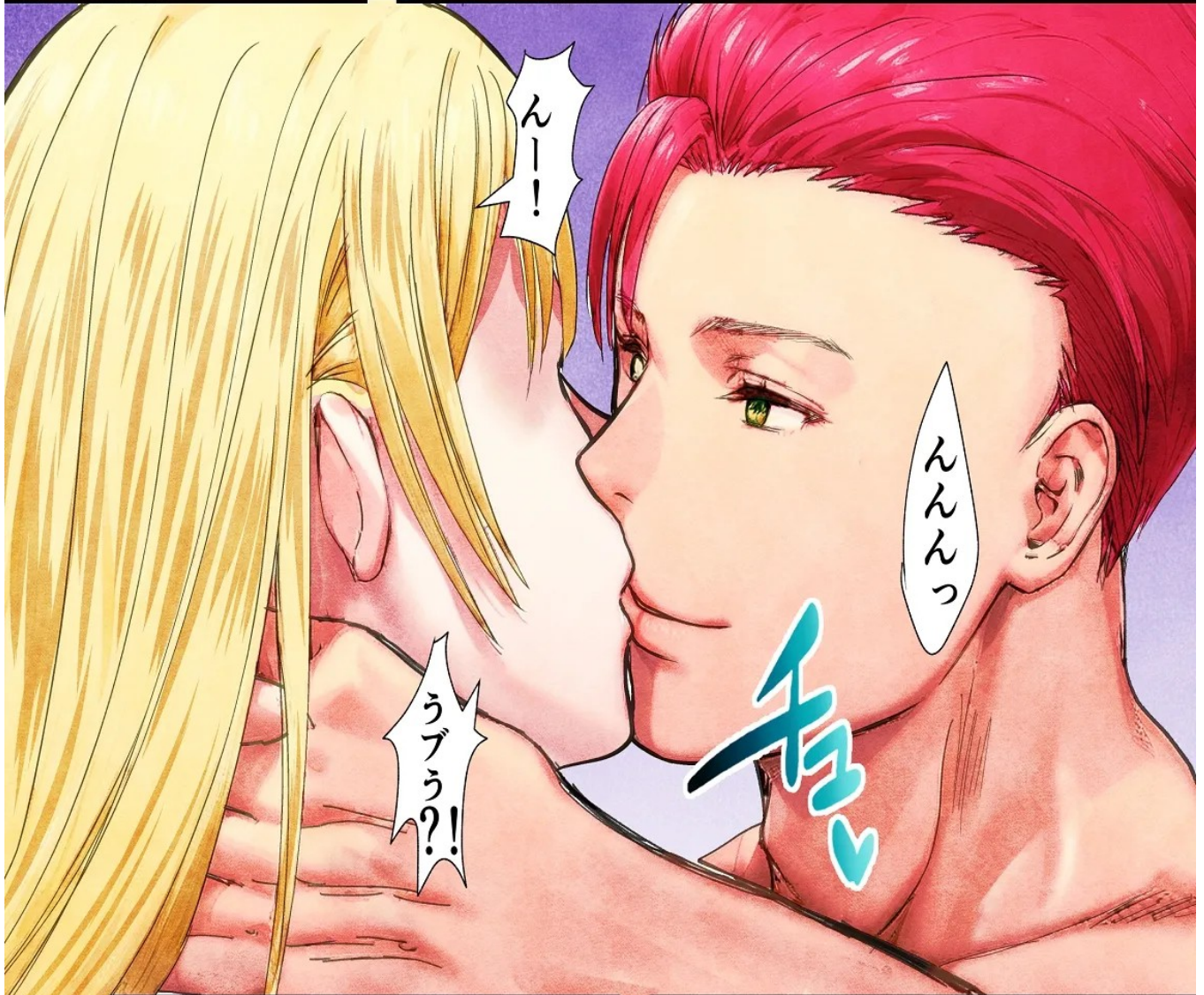


こっ...  
この蛮族が！



その蛮族に気を取られてる  
アンタはなんなんだ？

デアドラ姫





喉の奥まで  
吸われてる



舌が入ってきて



最中に舌を噛まれて  
死なれては困るのでね

ん~~~~!!

ん!

んんん!

アンタには  
孕んで貰わなければな!

まだ怪我をしている  
我が軍の兵士がいる

父上のお...為にも  
王女としてえ...

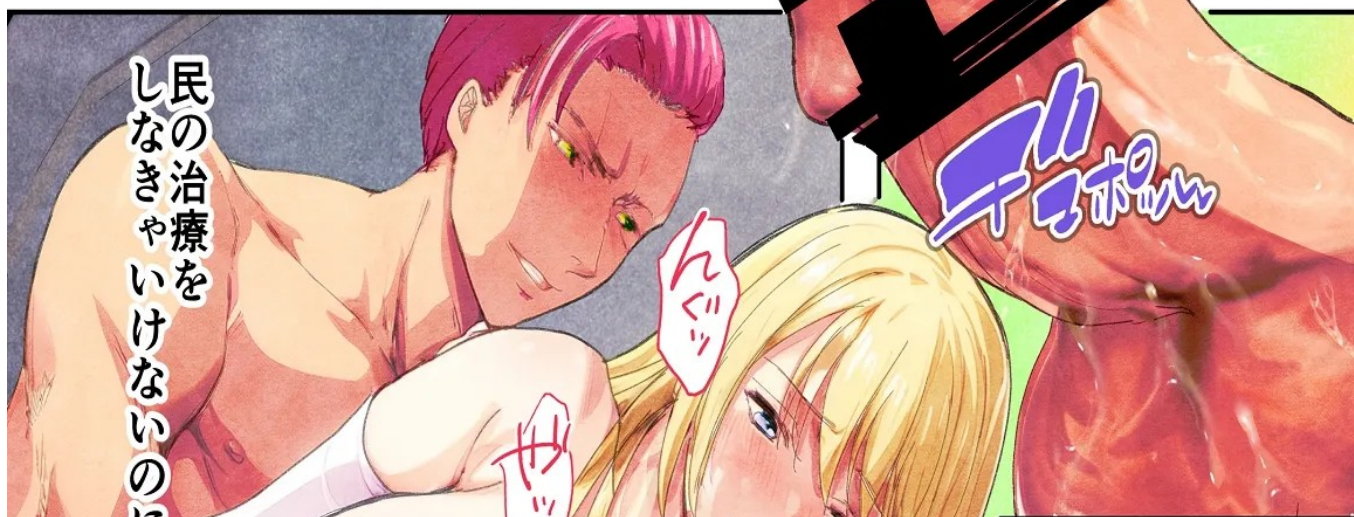
私の体はあつ  
貴方に賜られる  
為の玩具じゃない!

嬌声を出しながらの  
セリフじゃないな!

やめて!  
私から出て行って!

ちがっ







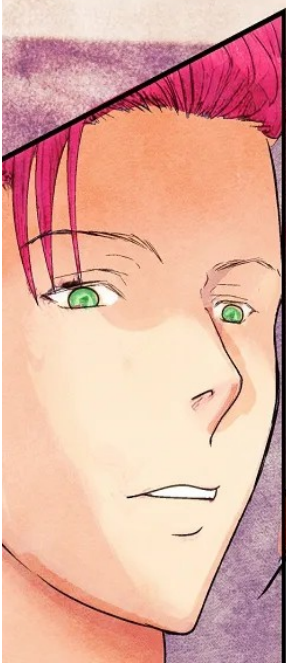


違う：私は  
こんな男に…



だが、口では拒んでも…  
身体はすぐに従順に  
なるだろうか？

こんな：屈辱に…  
心まで支配されるなんて…





どわっ  
どわっ

ずちゅん!

あまあま!

こんな風に!



わわっ

あま

こうやって後ろから  
激しく付くと恥辱で  
感度が増すだろう?



ふっ  
ふっ

わわ

わわ

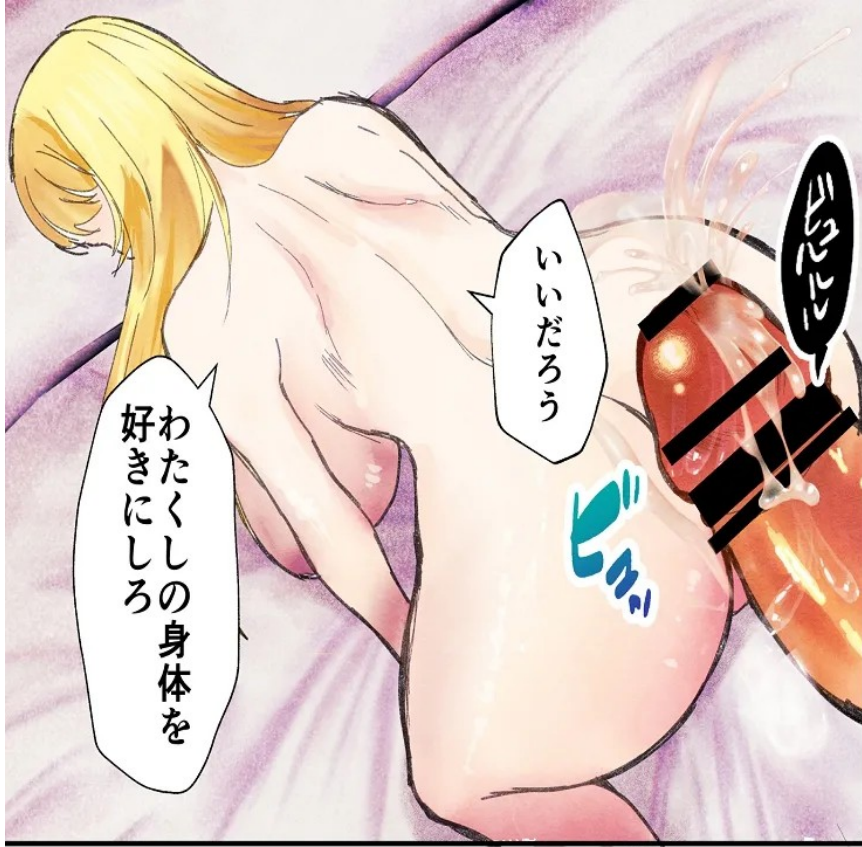
わわ

わわ

わわ







わたくしの身体を  
好きにしろ

いいだろう

いいえ



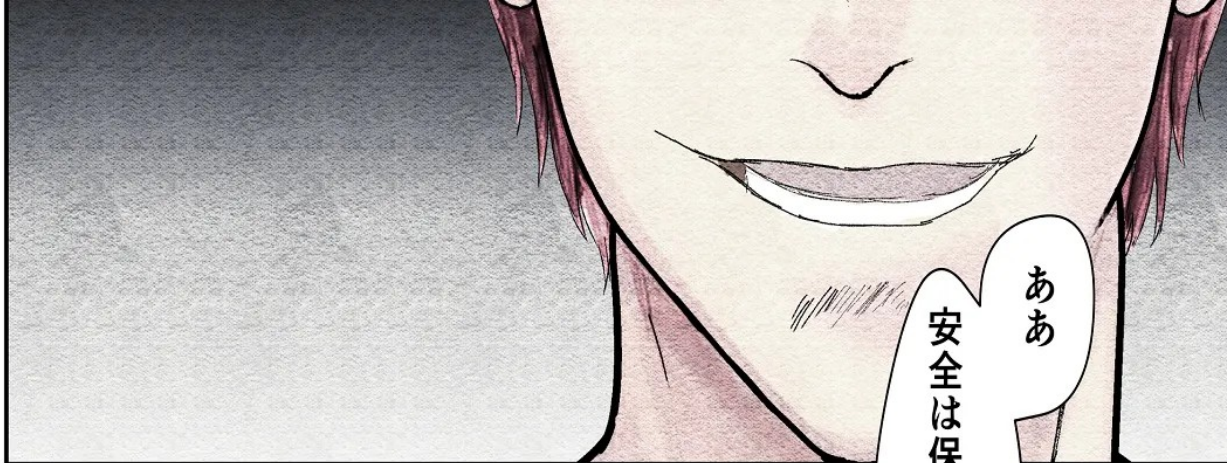
死んだ民…父上…



その代わり

ドルイド王国  
全員の身の確保を  
約束しろ

絶対だ！



ああ

安全は保障しよう



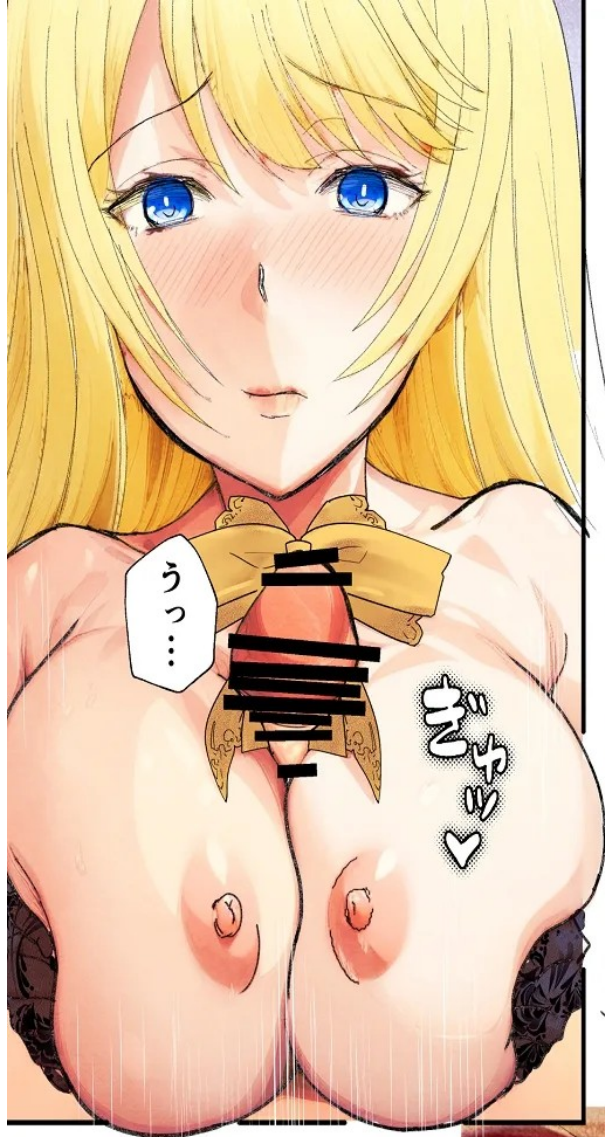
ただし



殺意に満ちたその眼が  
いつまで持つつか  
見物だがな！







うっ…

あはは



褒めてるんだ  
最初は口でするんだ  
歯が当たっていただけだからなあ

あはは

あはは



ニア



早く終わりたいだけよ



あはは

あはは

あはは



こんな事  
女の胸を玩具みたいに

もっと口ですぼめるんだ



何度口に含んでも  
大きすぎて苦しい  
ペニス



んああ!

やっと終わった

それではフィニッシュ  
といこうか

射精すぞ!



そんな強く  
揉まないで

わたくしの  
おっぱいを...

おっぱい

おっぱい

おっぱい



なんだ?  
俺のを律した  
こんなに濡れ  
ただでいるの  
か?

ドサッ

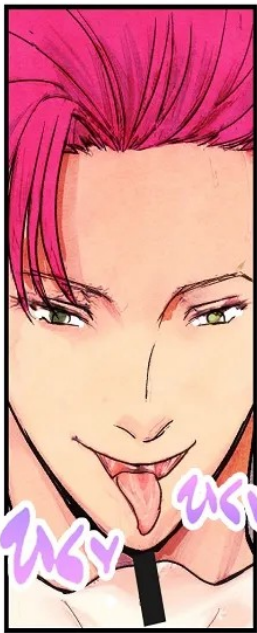
ひん!

みっみないでえ

何度夜伽してもあんたは  
処女のような事を言うな

トロ♡

トロ...





わたくしはママ○コに  
そのたいやらしい○を  
おたくのまじいペニ○を  
ぶちこんでください!

ヒン!  
ヒン!



そんなに欲しいなら  
くれてやろう!



ぐわんぐわん

あんたはここで  
俺に溶けていくんだ

俺だけがあなたの  
すべてを知る存在になる

ぎゅん

ぎゅん

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

抗うことも  
拒むことも  
忘れるんだ

……ふふ……ああ……  
溶けてしまう……

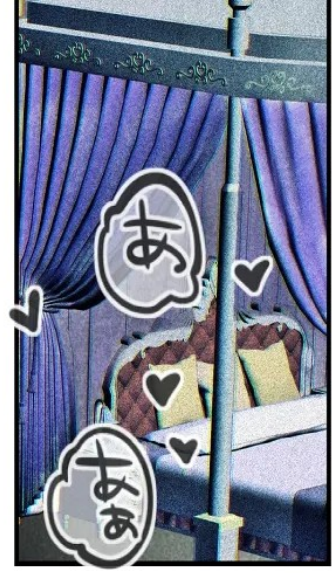
それが  
最高に気持ちいい  
だろう?

気持ちいい?

IP IP  
IP IP  
IP IP

IP IP  
IP IP

IP IP



もつと欲しい  
ぺにす



ペニス  
スターも

まんこにもおっぱいにも  
アナルにも顔にも  
全部ぶっかけて欲しい



ぶっかけて欲しい







さあ  
すべてを忘れる

欲望も、痛みも、過去も







何がだ



よろしいのですか？



デアドラ様に本当の事を  
お伝えしなくても

亡き妻  
デアドラ様のお母上を  
蘇らせるため  
黒魔術に手をそめ



国民全員を  
捧げようと  
した事を  
いけにえに



その父が外道に  
堕ちたなどー



その結果  
魔力の反動でー

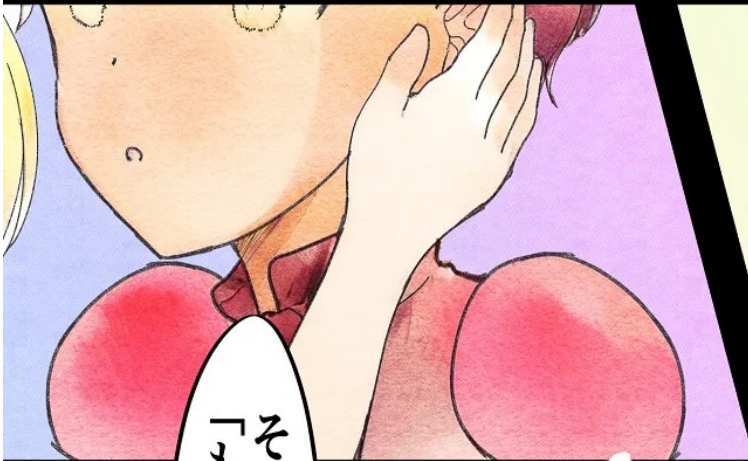
**不要だ**

父を慕っているのに





末弟かつ母の身分が低く  
父や兄に疎まれていた  
俺に



「そうじゃないよ  
もう一つの怪我」



怪我なら  
君が直したろ？

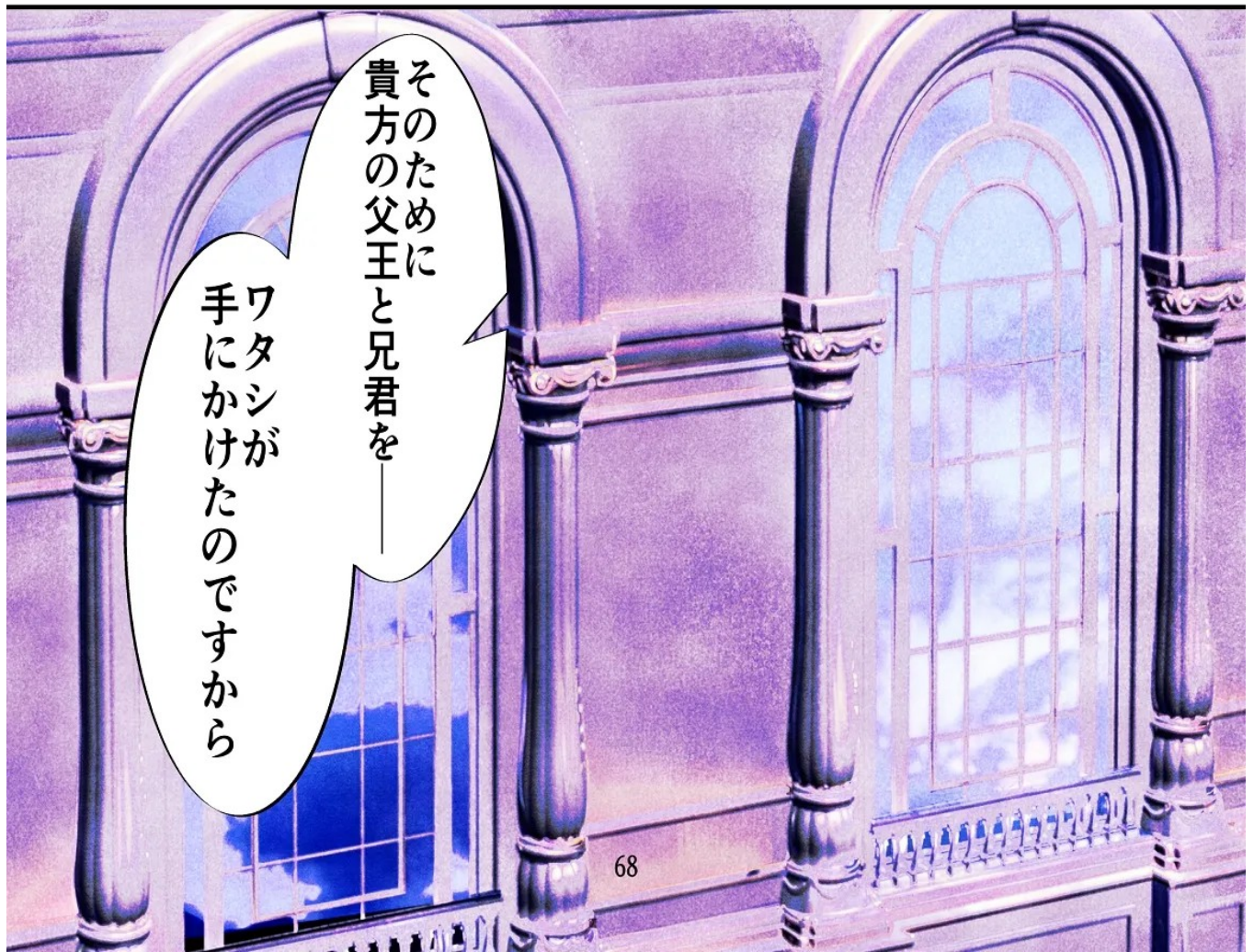


初めて

ふれてくれた人



ワタシは貴方が王位に  
つきさえすれば  
何も言いませんよ



そのために  
貴方の父王と兄君を

ワタシが  
手にかけてたのですから



サークル : Killout  
発行者 : さやかっぱ  
Pixiv:11409852  
X:killout\_961  
発行日:2025/03/20

## レビューありがとう企画

ご購入ありがとうございます。

「敗戦国ノ王女」のレビューを書いていただいた方限定  
描きおろしイラスト1Pをプレゼントします。  
ここが良かったとか30文字でもOKですw

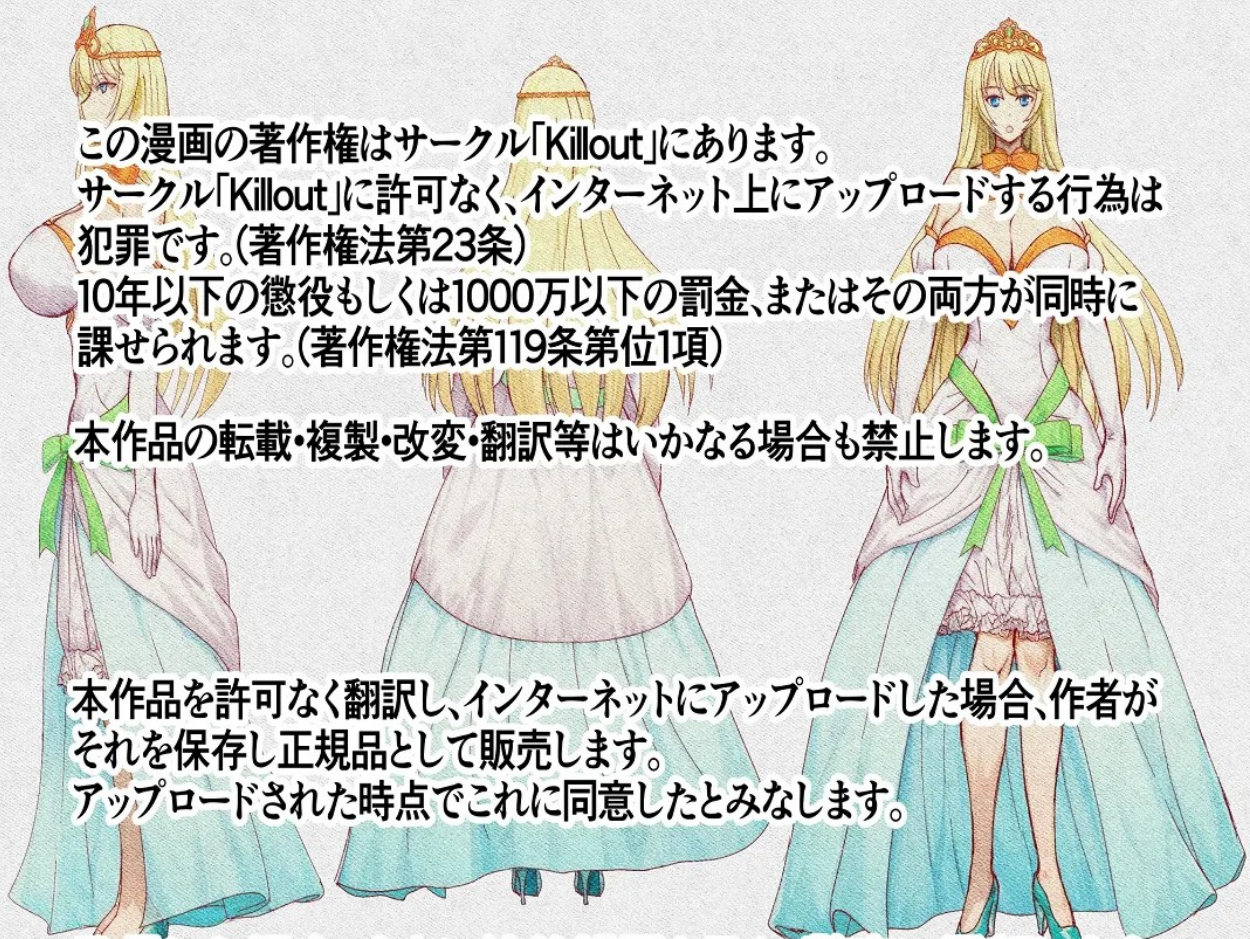
1. レビュー画面
2. 購入履歴

上記2点のスクリーンショットを添付の上、件名に  
「敗戦国ノ王女レビュー企画」と記入し  
下記メールアドレスに送付してください。

**misaki10ka@gmail.com**

レビューの〆切は2025/06/08まで



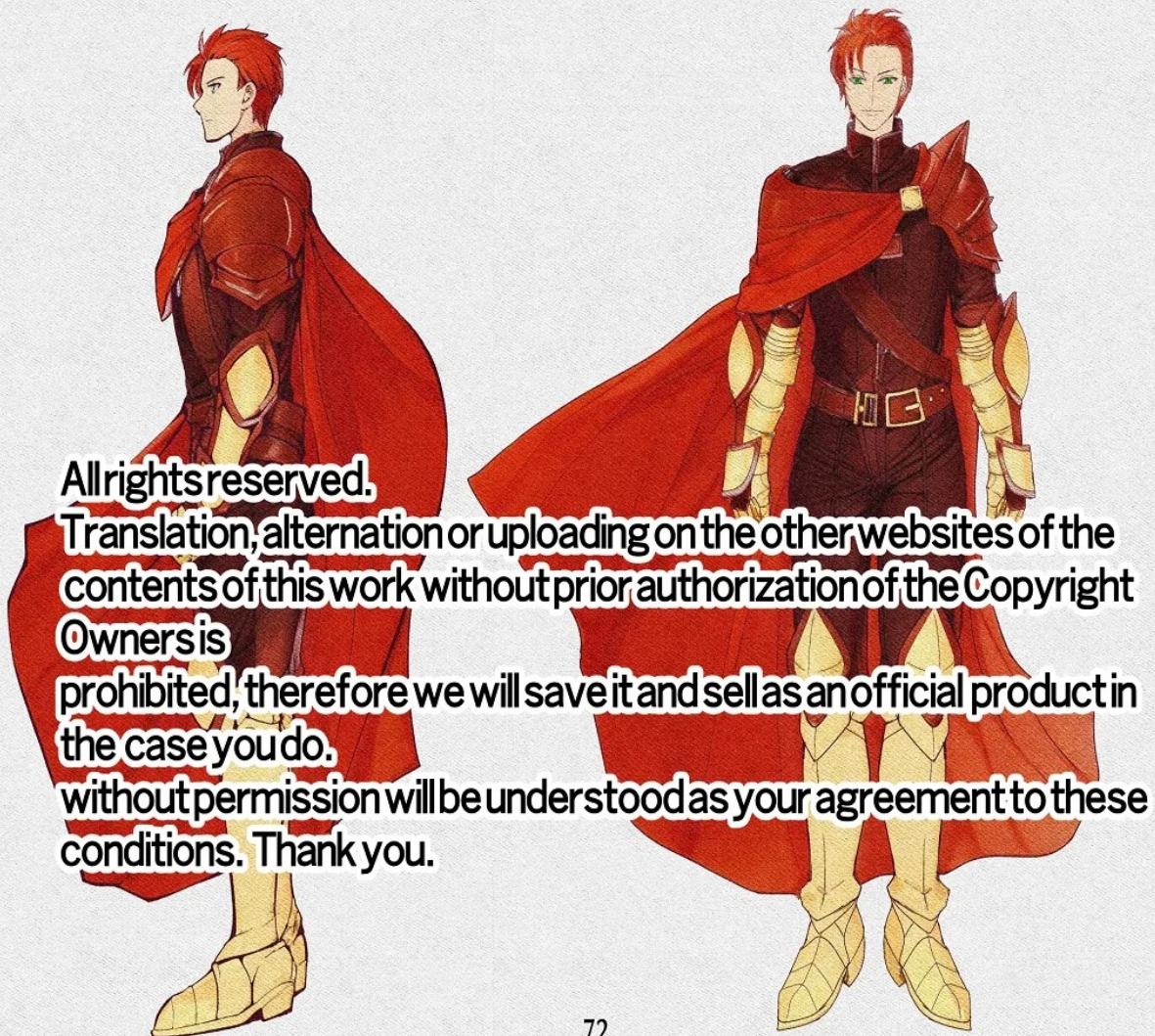


この漫画の著作権はサークル「Killout」にあります。  
サークル「Killout」に許可なく、インターネット上にアップロードする行為は  
犯罪です。(著作権法第23条)  
10年以下の懲役もしくは1000万以下の罰金、またはその両方が同時に  
課せられます。(著作権法第119条第1項)

本作品の転載・複製・改変・翻訳等はいかなる場合も禁止します。

本作品を許可なく翻訳し、インターネットにアップロードした場合、作者が  
それを保存し正規品として販売します。  
アップロードされた時点でこれに同意したとみなします。

発見した場合、すぐに法的措置を取り、警察に通報します。



Allrightsreserved.

Translation, alternation or uploading on the other websites of the  
contents of this work without prior authorization of the Copyright  
Owners is

prohibited, therefore we will save it and sell as an official product in  
the case you do.

without permission will be understood as your agreement to these  
conditions. Thank you.





王女調教録

敗戦国ノ牢獄



ドルイド王国は滅んだ。焦土と化した大地に、かつての誇り高き王国の面影はない。血と煙が充滿する中、城の瓦礫に埋もれた紋章だけが儂く輝いていた。

「……裏切り者め……！」

か細い声で呟くデアドラの腕には、冷たい鉄の枷が嵌められていた。美貌は憤怒と無力感に歪んでいる。——近衛隊長が王国を裏切ったと聞かされた瞬間から、心に渦巻く怒りは消えない。守るべき国を見捨て、敵へ寝返った者に対する憎悪だけが、敗北の痛みをかき消していた。

「悔しいか？王女様」

暗い地下牢に響く冷ややかな声。デアドラが顔を上げると、そこにはフロイヒ国王アルスターが立っていた。青色の瞳が嘲笑を浮かべ、王者の余裕を見せつけるように冷たい微笑を浮かべている。

「忠誠を誇っていた近衛隊長に裏切られ、王国は滅びた。あんたの誇りも共に砕け散った。」  
「守るべき者に殺された無様な王女。だが安心しろ。あんたの役割はまだ終わっていない。」

アルスターは鎖を引き寄せ、デアドラの身体を強引に引き倒す。

荒々しい手つきで顎を掴み、視線を絡め取るように囁いた。

「ここからは俺が支配してやる。心も、体も、全てだ。」

「ドルイドの誇りを抱えたまま、俺の快樂に堕ちていけ。」

デアドラの胸中を支配していた怒りは、冷たく湿った恐怖へと変わっていく。アルスターの執着に満ちた視線が絡みつき、逃げ場を失った獲物のように震える。絶望と屈辱が混じり合い、かすかな希望すらも打ち碎かれる感覚に包まれた。

「抵抗してもいい。無駄だと理解させるまで、何度でも。」  
アルスターの唇が耳元に触れ、冷たい吐息が肌を撫でる。  
「あんたの王国も誇りも、すべて俺だけのものだ。」

デアドラの胸に湧き上がるのは、憎悪か、恐怖か、それとも——  
答えは、やがて始まる狂気の調教によって暴かれることとなる。

——滅びの王女は、今宵すべてを奪われる。

いや……っ！やめて……！  
誰か……助けて……！

フツ……誰に助けを  
求めている？  
あんたの国も、あの男も  
もういないのに？

う、嘘よ……  
ノイッシュはきつと……！

嘘かどうか  
あんたの身体に刻んでやる……  
この俺のものだと……な

何度でも教えてやる  
あんたは俺のものだ……  
逃がしはしない……！！

ふふ、まだ出るとはな……  
王女様はどれだけ  
従順になった？

こんな薬なんかで……  
どうして……！

体は正直だな  
素直に俺のものだと  
認めろ

恥ずかしい……こんな姿  
誰にも……見せたくない……

ん

ん

ん

くくっ  
堕ちたあんたも  
誇り高き王女も  
どちらも俺だけのものだ

熱い：身体の奥が  
焼けるように：っ！

デアドラあんたは  
俺のものだ  
この身も子を宿す  
その腹もな

受け入れろ、俺の種を  
これであんたは  
フロイヒの牝だ

王女だろが関係ない  
俺の子を孕んで  
すべてを捧げろ

逃がさないぞ  
何度でも孕ませてやる

何度も注ぎ込まれて……  
もう逃げられない……

震えてるな……  
だが体は素直だ  
俺の種を喜んで  
飲み込んでる

だめ……このままじゃ  
アルスターの子を……！

王女なのに  
こんな形で……！

母乳を搾られながら  
膣に注がれる気分はどうだ？

膣もすっかり孕む  
準備ができたようだな

嘘：飲まされた  
薬のせいで  
こんなに…！

違う…！私はこんな…  
孕むつもりなんて…！

王女の乳とは思えないほど  
溢れてるじゃないか

やだ、搾られるたびに…  
お腹の奥が熱くなって…っ

薬の効果は抜群だな…  
もうこんなに滴ってるぞ？

膣の中…熱い…っ  
こんなにさらされたら…っ

おかしい…！こんなこと  
されたくないのに…！

いいぞ、そのまま俺の子を  
育てる体になれ

ああっ  
またイってしまおう！

こんな形で心が  
満たされるなんて……  
許されないのに……

いい顔だ

熱い……でも  
どうして……  
嫌じゃない……

何度泣いても許さない  
もつと堕ちろ、デアドラ

苦しそうに震えるのも  
悦んで乱れるのも  
全部俺だけのものだ

おん♡

だめ……！  
こんなの……もう……！

王女なのに……っ！  
こんな、牝みたいにされて……！

王女？そんなもの  
今のあんたに  
何の意味がある？

ほら、どこを触れても  
滴るようになってるぞ？

搾られて……  
奥に注がれて……！  
こんな、私の身体じゃない……っ！

大人しく受け入れろ……  
あんたはもう  
俺の器なんだからな

俺の子が育つんだ……  
それが王女の義務だろ？

私の中で……ああ……  
そんなに、出さないで……っ！

お願い……もうやめて……っ  
お腹の中、熱いのが  
流れ込んで……！

これが母になる身体だ

熱い：身体の奥が  
焼けるように：っ！

デアドラあんたは  
俺のものだ  
この身も子を宿す  
その腹もな

受け入れろ、俺の種を  
これであんたは  
フロイヒの牝だ

王女だろが関係ない  
俺の子を孕んで  
すべてを捧げろ

逃がさないぞ  
何度でも孕ませてやる

何度も注ぎ込まれて……  
もう逃げられない……

震えてるな……  
だが体は素直だ  
俺の種を喜んで  
飲み込んで

だめ……このままじゃ  
アルスターの子を……！

王女なのに  
こんな形で……！

母乳を搾られながら  
膣に注がれる気分はどうだ？

膣もすっかり孕む  
準備ができたようだな

嘘：飲まされた  
薬のせいで  
こんなに…！

違う…！私はこんな…  
孕むつもりなんて…！

王女の乳とは思えないほど  
溢れてるじゃないか

やだ、搾られるたびに…  
お腹の奥が熱くなって…っ

薬の効果は抜群だな…  
もうこんなに滴ってるぞ？

膣の中…熱い…っ  
こんなに出来たら…っ

おかしい…！こんなこと  
されたくないのに…！

いいぞ、そのまま俺の子を  
育てる体になれ

ふっ…  
視えない恐怖というの  
もなかなか悪くない  
だろう？

何も見えない…怖い

いや…いやっ！  
こんなの嫌…！

助けて…ノイツシュ…！

あんたの身体が  
俺を覚えるまで…  
じっくりと調教してやるぞ

ふふ、まだ出るとはな……  
王女様はどれだけ  
従順になった？

こんな薬なんかで……  
どうして……！

体は正直だな  
素直に俺のものだと  
認めろ

恥ずかしい……こんな姿  
誰にも……見せたくない……

くくっ  
堕ちたあんたも  
誇り高き王女も  
どちらも俺だけのものだ

熱い…身体の奥が  
焼けるように…っ！

デアドラあんたは  
俺のものだ  
この身も子を宿す  
その腹もな

受け入れろ、俺の種を  
これであんたは  
フロイヒの牝だ

王女だろが関係ない  
俺の子を孕んで  
すべてを捧げろ

逃がさないぞ  
何度でも孕ませてやる

何度も注ぎ込まれて…  
もう逃げられない…

震えてるな…  
だが体は素直だ  
俺の種を喜んで  
飲み込んで

だめ…このままじゃ  
アルスターの子を…！

王女なのに  
こんな形で…！

母乳を搾られながら  
膣に注がれる気分はどうだ？

膣もすっかり孕む  
準備ができたようだな

嘘：飲まされた  
薬のせいで  
こんなに……！

違う……！私はこんな……  
孕むつもりなんて……！

王女の乳とは思えないほど  
溢れてるじゃないか

やだ、搾られるたびに……  
お腹の奥が熱くなって……っ

薬の効果は抜群だな……  
もうこんなに滴ってるぞ？

おかしい……！こんなこと  
されたくないのに……！

膣の中……熱い……っ  
こんなにさらされたら……っ

いいぞ、そのまま俺の子を  
育てる体になれ